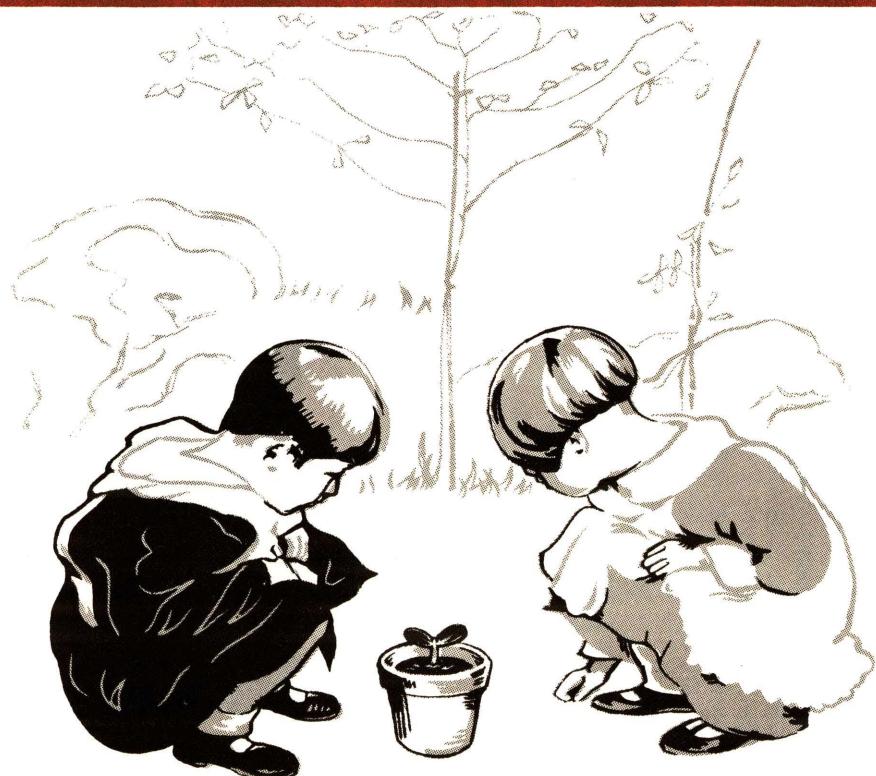


幼兒の教育



第十六號 六月 卷十四 第

東京女子高等師範学校内会
日本幼稚園協会

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(再版)

観察の實際

菊判 一三〇頁
定價金壹圓
料送(東京市内)金六錢
料其他金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集(四版)

送 菊版三五〇頁
料 定價金壹圓五拾錢
太 北海道市内
韓 滿洲
満洲

系統的保育案の實際(四版)

送 定價金壹圓
料 金 六
太 金 拾 五
韓 錢 錢
満洲

幼兒の教育(月刊)

送 菊版三五〇頁
料 金 六
太 金 拾 五
韓 錢 錢
満洲

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

日本幼稚園協會

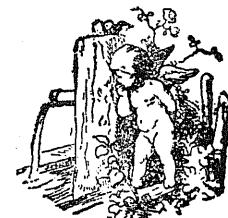
京東大・小石川
東京高女附屬幼稚園

振替東京一七二六六

文部省推薦圖書

幼兒教育論

〔五版出來〕



法政大學教授
城戸幡太郎著

元 一・八〇
二・一四

去る三月三日舞祭りの夜ヲ

チオを通じて全國に弘く放送された本書の内容につい

ては今更贅言を要しないと信じます。

幼兒を直接指導される保姆様は勿論、あまねく世のお母様方にも是非讀んで戴きたいと思ひます。

— 大綱 —

幼稚園の生活理學

東京文理大講師 波多野完治著

元 一・八〇
二・一五

児童生活と學習心理

東京帝大講師 青木誠四郎著

元 一・八〇
二・一五

五 幼兒生活の指導法 ○ 幼兒指導の態度 ○ 幼兒と言葉の訓練 ○ 子供の間と答 ○ 子供の嘘について ○ 子供の生活指導 ○ 兩親教育の問題

一 就學前教育の重要性 ○ 我等は何をなすべきか ○ 幼兒教育の歴史と問題 ○ 幼兒教育と國民教育 ○ 幼兒生活と保育者事業と兒童問題 ○ 犬困兒童の問題 ○ 性繁期託兒所の問題 ○ 農村における保育事業の託兒所と母親學校 ○ 保母の立場と教養 ○ 利川厚生の教育 ○ 保母は子供に何を求むべきか ○ 子供の保母に何を求めるか ○ 保母の教育 ○ 保母養成の問題 ○ 幼兒教育の研究法 ○ 學問研究の態度 ○ 兒童心理學の發達 ○ 保育問題の解決法 ○ 自由遊びについての調査 ○ 遊具と幼兒の社會性

月刊教育新潮 文館 賢丁二橋ツ一區田神京東番一八〇五京東座口替振呈進込申本見容内書各

第拾貳回保育夏期講習會豫告

主 催 佛 教 保 育 協 會

本會主催保育夏期講習會は皆様の御援助により昭和四年創立以來毎年一回も休まず本夏を以て第拾貳回を迎へました。然かも昨年は定員を超過すること百六拾餘名に及び會場等の都合によりお断りいたした様な次第であります。

本年は特に皆様の御便利を圖り會場を帝都の中心地である京橋區銀座東京市立泰明尋常小學校（銀座スキヤ橋畔）こし定員も四百名に増し鐵道も五割引の交付を受くる様日下準備中であります。又多數御來會の程お待ち申してをります。

要 約

一、期 日 昭和十五年七月二十七日ヨリ三十一日マデ五日間（毎日午前八時ヨリ午後四時マデ）

一、會 場 東京市京橋區銀座スキヤ橋畔（日劇前）

東京市立泰明尋常小學校

（省線
有樂町駅下車約半丁
市電
スキヤ橋下車）

一、講師及科目

一、國民學校ト幼稚園トノ連絡(二時間)

東洋大學教授

關 寛

之氏

一、銃後婦人ノ覺悟(三時間)

前京都女子專門學校長

朝倉 晓

瑞氏

一、幼兒ノ栄養(二時間)

理學博士 佐伯 矩

規氏(交渉中)

一、幼兒ト體育(二時間)

交涉

中

一、童畫ノ導き方(二時間)

石井 柏亭氏(交渉中)

一、幼兒唱歌ノ導き方(四時間)

四家文子氏

一、手技指導(六時間)

ト部 たみ氏

一、遊戯指導(六時間)

江口、宮舞踊研究所長

江口 隆哉氏(交渉中)

一、同 (七時間)

タノダバツハ舞踊研究所長

賀來琢磨氏

一、講習料 金參圓

一、定員 四百名(申込期限七月二十日)

一、宿泊 一泊二食付一圓五十錢ニテ會場ヨリ約五丁築地本願寺宿泊部ヲ紹介

一、鐵道割引 五割引

一、申込所 東京市京橋區築地二丁目、築地本願寺社會部内

倉橋惣三編（新刊）

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價（送料共）
金七拾錢

目　　日本の旗日の丸の旗　　小倉橋耕惣三作詞
次　道　ぶ　し　ん　　倉橋耕輔作詞
井　上　武　士　　上作詞
火消しのたちさん　　小倉橋惣三作詞
渡し場の船頭さん　　中山晋平作詞
小林つや江作詞

日本幼稚園協会編（新刊）

幼稚園新唱歌

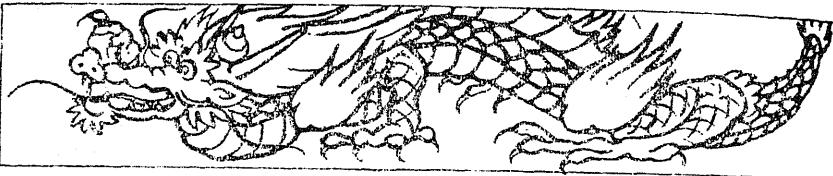
四六倍判
定價（送料共）
金五拾錢

目めだか　小山村きよ作詞
次雨　　小杉山耕輔作曲
小松耕輔作詞
米子作曲
松耕輔作曲
小場氏原作曲
小原耕輔作曲

〇一〇二二の新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるることを期待してゐる。

六六二七一京東音響振會協園稚本日

五三町塚大・川石小・京東
内園稚幼屬附師高女京東



第十四卷 幼児の教育 第六號

—(次) 目—

扉

幼児保護と幼児教育	倉橋惣三(一)
幼稚園と國民學校	堀七藏(四)
兒童研究法	松本金壽(八)
六月の幼児童謡	葛原しげる(三)
中村正直先生五十年忌	倉橋惣三(三)
感激の一幕	上澤謙二(三)
子供らしさと環境	波多野勤子(三)
六月の保育	及川ふみ(毛)
第四回フレーベル賞審査發表(童話・童謡)	(三)
選者銘々感	(五)
六月の聲	J O X A(四)
幼児の母	(四)
幼時の追憶	曾根保(五)
ハイディ——ヨハンナ・スピリ原作——	津田芳雄譯(毛)

石森延男著

東京市神田區神保町三丁目一九
大阪市住吉區北田邊町三〇六

横山書店

幼な子へのお話

四六版二百五十頁
色刷美術插繪八葉
装 禎瀟洒
Y. 1.60

お母さんや幼児の先生方は、お子さんたちから、お話をせがまれないでせうか。お話がなくなつてお困りにならないかしら。そんな時には、どうすればいいのか、どうすればお話が作れるやうになるのか。この本は、そのことについてわかりやすく丁寧にかいてあるそれは美しい手引書であります。

推薦の言葉

倉橋惣三先生

お母さんにお話をきかせていただだくことは、子きもの大きな幸福である。しかもその幸福は、お母さんの方に、もつと大きいかもしね。この幸福に氣がねしてゐるお母さんが必ずしも少くない。「お話をしらないから。」そんなこさに氣おくれしては、わが子の求める幸福を與へかねたり自分の幸福を我さうけかねたりしてゐる。「お話なんてそんなにむづかしいものではありませんよ。」さいひながら、にこやかに相談相手にならうとしてゐるのがこの本である。本書が、お母さん方の幸福を増すことを疑はないと共に、幼児の先生にも、姉さんにも、ぜひ薦めたいと思ふのは私ばかりではあるまい。

下の繪は、兄さんとオタマジヤクシを見て
ゐるところださうです。上の繪は藻の蔭に錦
魚のゐるところださうです。さうでは書
家に失禮ですが、そこはおとなななさけない
ところで、子ども同志ではすぐ分ります。
たゞ折角の錦魚を黒にしたのは作家に對して
申譯ありません。（倉橋生）



幼兒保護と幼兒教育

倉 橋 物 三

生めよ殖やせよ。大に必要である。幼兒の健康増進。大に重要である。いつの世でもこれに大に力を盡さなければならぬ。況して此の重大の時局下に於て、緊急事中の緊急事たる人口政策の根本として、如何に力を盡しても、まだ足らざるをのみ思はしめるものである。われ等も、此のために、あらゆる力をいたしたいつこめてゐること、素よりいふまでもないのである。又、この趣旨に基く社會的施設の普及すること、國家的政策の強化せられること、實に々々喜びにたえないものである。

しかも、われらの常に々々思ふことは、その多く生まれ多く殖える小國民が、その健康に於て折角大いに充實させられる小國民が、その人間的質の點に於て、一人のたらず立派なものであらんことをである。若しこの點に於て足りないところ、缺くるところがあつたら、それは決して、眞に國策に副ふものでなく、又、その子等の眞の幸福でもない。

こんなことは、きまり切つたことである。今更何も二つ並べて言はなくともいいところである。がしかし、萬一にも、注意が努力が一方に偏して、いくら過ぎても偏するといふことはないが、一方が跛行することがあつたら、遺憾十萬なことである。勿論、どちらの方面が大切かといふやうな、小兒ぼい比較をしたりする必要はない。又、そんな比較なんて、離れたものとして扱ふべきことは本来ない。が、しかし、兩方とも始終いつしよに考へられてゐなければならない。殊に、一方を強調する者は特に他方を忘れないことに留意しなければならない。それは、保護の方からも、教育の方からも、そこまでも全く同じ互のことである。

○
幼兒保護と幼兒教育とは、その歴史的發生に於て、必ずしも一つでなかつた。そして、その發生のまゝに二つの流域に

分れて流れたこゝも久しい。しかし、これは、過去の話である。幼児保護をしても、幼児教育をしても、まだ充分その自覺が渾成してゐなかつた時代のことである。偶々その対象の状態によつて促され、偶々自分の心的發展によつて導かれ、或は保護を急務とし、或は教育を必須としたに過ぎない。狭い偏りであつたといつては、斯道の先覺に對して非禮ではあるが、幼児問題の渾成せる今日から見れば、昔は狹く一方に偏つてもゐたのである。今はさうであつてはならない。さいふよりも、さうではあり得ない。保護と教育を切り離して、幼児を大切にすることは、今日の理論どころか常識にも合はない。假りに仕事として一人で兩方出來ないといふ、昔ながらの慣性が抜け切らないとしても、それは偏りだといふことを、自らよく羞ぢもし、濟まないこゝもすべきである。現に親は、我子の保護者なのか教育者なのか。子にさつて、それが二つであり得ない如く、親にさつても二つであり得ない任務である。

○
保育所と幼稚園を、如何にも對立のやうにいふ淺薄な言葉も久しい。もう舊世紀の古言葉である筈であつて、まだ、正直のところすたり切れないとこゝろがあるやうにも見える。こんな間違ひは、なんにも知らない人のいふこゝか、一方だけしか知らない人の他は言ふ筈のない言葉であるが、それが時々尤もらしく説き立てられたりするのは恥しいこゝである。そりやあ、必要な趨くところ、先づ差し當つて、さつちに着手するか別のあるは、何んの場合にしても世間の普通である。しかし、それは、そこに止まつて、他を輕んじ、他を怠つていゝといふ譯のものではない。そんなこゝがあつたら、幼児に對する完全な忠實といひ難いこゝになる。

幼児教育者を以て任ずるものは、幼児保護に就て、充分の理解をもち、それを當然自分達の任務として熱意をもたなければならぬ。幼稚園といふものが、さういふ歴史で外國に發達し、さういふ風に我國で創められたかはさうでもいゝとして、今日の日本の幼稚園は、教育機關であり保護機關である筈のものである。それと同時に、幼児保護事業者を以て任ずるもののが、幼児教育に就て、關心が足りず、用意を缺いたら、その傳統の事業には忠實らしくとも、幼児に忠實とはいへない。ほんたうに幼児を愛するものは、その一人をしつかりと抱くものには、保護と教育とが、到底二つになるものでないのである。況して、その幼児は、それ／＼の保護や教育の対象となる前に、先づ、その子であるこゝは、いふまでもないこゝである。そこには、幼児事業があり得るばかりである。

但し斯ういふのは、今日の幼稚園が幼稚園として存し、今日の保護施設が保護施設として存すること、そのここに異議をいふのではない。實をいへば、それが同じ名になる方が理論的にも當然であり、實際上にも適切であるのであるが、今はそのことを論じようとしてゐるのでない。それゞゝの理由が動機になつて、それゞゝの形のものが出来るのはいゝことして、その一方だけが、幼児問題の中心であり、本體であるべきだといふやうな考へ方なりと、先づ除去しなければならぬとするのである。時折り聽くところの、さこの縣ではさつちにのみ力を盡して、さつちに無關心だとか、甚だしきは、國の力の入れ方も、さつちに重きが拂はれてゐるさか、斯ういふ話さ、更にそれ以上そんな話の出る所以が遺憾なのである。國民を、幼児の保護と教育を別個のものに考へる誤りに導くものだからである。幼児問題の正しい進歩は、かうした誤りの正されるところにあるべき、又さうあつてこそ、現代の幼児問題觀さいはれるのである。

さいふさ、年長児の場合でも、保護と教育とは分れるではないかといふ論が出るかも知れない。さあ果してさうかさうか、それは暫くあつかりとしても、少くも、そんな區別の分れ得ないところに、幼児問題の特質があるのである。

更に又考へる。保護が社會的必要からであるとして、だから教育が與へられなくていい、いふものではない。教育程、公平でなければならぬものはない。否々、或る意味では、保護が社會的に緊急であるやうな場合にこそ、一層、教育が必要なのである。社會の或る子さも達は周到に教育せられ、或る子さも達はその教育を割引せられていい、いつたやうなこゝ位、世に理解し難いことはない。勿論、そんな理解し難いことが考へられ、又意圖されてゐることはあり得ないが、結果からは、さも初めから、さう思はれてゐるかに思はれるやうにならぬとも限らない。

大切な、皇國の子、その食ふもの、衣るものも、差のないやうにしてやりたい。しかし、それは或は差があつても已むを得ないとして、教育だけは、全く同じものを、全く同じく充分に與へてやらなければならない。この意味で、保護は、その必要の場合に必要であり（勿論、その必要は現に廣い）、教育はいつも全般的だといはれ得るのである。

幼稚園と國民學校（三）

東京女子高等師範學校教授

堀 藏

七

り上げ、更に田所特別委員長の報告要領を紹介しよう。

教育審議會は國民學校に關する要綱と共に、師範學校及幼稚園に關する要綱をも答申してある。然るに國民學校に關する要綱については目下盛に研究せられてゐるが、師範學校及幼稚園に關する要綱については殆ど顧られない有様であるのは誠に遺憾である。殊に幼稚園に關する要綱について幼稚園關係者は殆ど知らないのではないかと疑はれるのは必ずしも私だけの僻目であらうか。尤も國民學校の方は義務教育であり、一千二百萬に近い學童についての問題であり、文部省當局なども非常に力を入れて居られるが、幼稚園については左程のことがないのも無理からぬことと思はれる。しかし幼稚園當事者なりさせめて幼稚園に關する要綱を研究しその精神を幼兒保育に實踐せらるべきである。この意味に於てこれから幼稚園に關する要綱を取

幼稚園に關する要綱は僅かに四項であるから、その各項についての報告要領を對照することにする。

一、幼稚園ノ設置ニ付一層獎勵ヲ加フルト共ニ特別ノ必要アル場合ハ簡易ナル幼稚園ノ施設ヲモ認ムルコト

幼稚園の制度は逐年發達の趨勢にあるも、其の數昭和十一年度に於て約一千を算するに過ぎません。而も其の中官立、公立は少數にして大部分は私人の經營にかかるのであります。向後國家として一層之が普及發達に意を用ひ、殊に父母共に勞動に從事する者多き都會地及農繁期に於ける農村等に對しては一段の力を注ぐべきであると思ふのであります。是等の地域に對し、教育上幼稚園の設置を容易ならしむる方途を講ずる要あると共に簡易なる季節的幼稚園

をも設け得る途を開き、家人をして安心して労働に従事せしむるのみならず、幼児を教育的に保護することには極めて必要なる措置であるご信ずるのであります。

二、幼児ノ保育ニ付テハ特ニ其ノ保健竝ニ躰ヲ重視シテ之が刷新ヲ圖ルコト

幼稚園の任務は申す迄もなく、幼児の身心を健全に発達せしめ、善良なる性情を涵養し、家庭教育を補ふことに在るのであります。が、將來一層斯くの如き保育内容の刷新を期することゝし、純真なる性情の涵養と共に、特に一層幼児の保健養護に留意して強健なる身體の基礎を作るにため、知的負擔を多くするが如きは嚴に戒しむべきであります。又躰を重視して日常生活に於ける正しき習慣を得しむるに力め、國體に對する敬虔なる心情を啓培し、團體生活を指導する等は極めて大切考へられるのであります。

この項並に説明を特に熟讀吟味したる後現在の幼稚園保育の實際を大に改善せねばならぬ。即ち現在の幼稚園保育に於て

り、過度の業を爲さしめてはゐないか。十分に反省し、多少とも知的負擔を多くするが如きは嚴に相戒しむべきである。

(三)現在の幼稚園保育に於て躰を輕視するが如きこそがないか。日常生活に於ける正しき習慣を得しむることに缺くる點がないか。大に反省せねばならぬ。

(四)幼稚園保育に於て國體に對する敬虔なる心情を啓培し團體生活を指導するには如何にすべきか。特に心情の啓培、團體生活の指導といふ言葉に留意して、幼児の發達程度に副ふ保育方法を講ぜねばならぬ。

三、保母ニ付テハ其ノ養成機關ノ整備擴充ニ力ムルト共ニ其ノ待遇改善ヲ圖ルコト

保育内容の刷新は畢竟保母養成機關の整備充實に待たなければなりません。我が國には未だ制規の保母養成制度は確立せられてをらないのみならず、女子高等師範學校内に便宜設けらるゝ保育實習科を除き、現存する三十有餘の養成所は總て私人の經營に委ねられ、其の程度の如きも概ね中等學校卒業後修業年限一年となつてゐるのであります。然しながら文物の進歩著しく幼児保育の國家的重要性愈々加はれる今日、之を等閑に附することなく一日も速に保母養成制度を確立し、其の修業年限は少くとも一年以上と爲すべきであります。保母養成制度の確立と相俟つて之が指

(一)幼児の保健養護に留意して強健なる身體の基礎を作ることに力めてゐるか。多少とも遺憾な點はないか。若し遺憾なる點があれば如何に保健養護の改善を圖るべきか。

(二)現在の保育に於て知的負擔が多くはないか。幼児の身心發達の程度に副はず、幼児の會得し難き事項を授けた

導監督機關を整備すると共に保母優遇の途を講ずることには、保育制度の實績を擧ぐる上に於て極めて肝要であります。

四、幼稚園ト家庭トノ關係ヲ一層緊密ナラシムルト共ニ之ニ依リ家庭教育ノ改善ニ裨益セシメ、併セテ幼稚園ノ社會教育的機能ノ發揮ニカメシムルコト

幼稚園は前にも述べたる如く、家庭を扶けて幼児の身心

の適正なる發達を遂げしむるを以て本旨とし、特に社會的乃至教育的理由によつて家庭に求め得ざる發達の機會を與ふるに力めることが大切であります。此の意味に於て一層家庭との聯絡を密接ならしむべき方法施設を講ずることが肝要であります。之に依つて啻に幼稚園の職能を完うし得るのみならず、延いて家庭教育の改善に裨益し幼児保育の全きを期することが出来るのであります。

三

最後に委員會に於ける一致の意見として附加すべきは幼稚園託児所との關係であります。申す迄もなく前者は専ら幼児保育の教育的必要に出发し、後者は勞働者と共に乳幼児の保護を目的とする社會事業として發達したのであります。

まして、現在兩者は行政上の指導監督に於て系統を異に致してゐるのであります。然しながら實際託児所も單に乳幼児の保護のみに止まらず、大體幼稚園と同様幼児の保育を

致してゐる實情であります。斯くの如き教育的機能に付ては教育行政上の立場から配慮せらるべきものがあるやうに考へられるのであります。幼児保育の重要性に鑑み、是等の點に關しては今後政府に於て十分慎重なる研究を遂げ、幼児保育上有効適切なる措置を講ぜられたいのであります。

四

幼稚園に關する要綱について田所特別委員長の説明は以上で終つてゐるが尙ほ報告要領の初頭に於て、次の如き説明がある。

更に國民育成の根基を培ふ意味に於て、就學前に於ける幼児保育の刷新を圖ることが肝要であります。之が爲には固より家庭教育及女子教育の振興を圖ることが大切であります。が戦時に於ける社會の推移に伴ひ家庭を扶けて幼児保育の完きを期する要懇々切なるものがあるので、將來一層幼稚園の普及發達を圖ると共に其の内容を充實するこことは國民基礎教育の刷新と相俟つて刻下極めて須要と考へられるのであります。

五

田所特別委員長は教育審議會總會に於て、國民學校に關する要綱、師範學校及幼稚園に關する要綱の説明を終りたる後、結語として次の如く述べて居られる。

以上を以て特別委員會が決定致しました國民學校に關する要綱、師範學校に關する要綱並に幼稚園に關する要綱の説明を終ります。前にも申し述べた如く國民學校の教育は

國民全體に對する基礎教育でありまして、學制全般の根基を爲すものとして重要なのみならず、國民生活の實際に影響し國運の將來を左右する所極めて大なるものがあるのです。師範學校教育の國家的重要性も亦かかる國民教育との關係に於て存するのであります。他方幼兒保育は國民教育の素地を培ふものとして、是亦重要な教育の基礎問題であります。我が國は今や東亞の新秩序建設といふ曠古の大業を前にして國家總力の最高の發揚を焦眉の急務と致してゐるのであります。此の秋に當り政府に於ては刻下最も緊要の是等一聯の基礎的問題を教育國策として、一日も速に之が實現に向つて邁進せられんことを切望して已まないのであります。而して本案の如き教育の內容及制度の全面に亘る根本的刷新の實績を擧げんが爲には、周到なる用意の下に具體の方策を樹て、之が實施に臨むることの必要なのは勿論、實施に移したる後に於ても改善的根本趣旨の徹底を期する爲、刷新改善に關する繼續的努力を必要とするのであります。依つて政府に於ては之が實施に際し研究調査並に指導監督に關する機關を整備し、大なる抱負を堅き決心を以て其の成果を收むるに力められんことを併

せて切望する次第であります。

以上で幼稚園と國民學校に關する教育審議會の答申について大要を説明したのである。而して目下文部省は國民學校案の準備で大車輪の活動である。即ち一方に於ては國民學校令及國民學校令施行規則の制定公布についてその原案を作製し、その審議を進め、漸く文部省の省議を了り、法制局に廻附せられるといふ手續中である。他方に於ては、國民學校令並に國民學校令施行規則中の教則案につきその精神を小學校の現職者に普及徹底させるため全國百二校の師範學校に於て講習會を開催する筈である。即ち各師範學校に於て一回五十人の小學校教員を集めて國民學校教育の精神を講習し昭和十五年度中にこの講習を七回開催する豫定である。之によりて一師範學校で三百五十人全國百二校の師範學校で三萬五千人の講習を施すことになる。而してこの講習の講師を養成するが爲め文部省は五月下旬から六月上旬にかけ八ヶ所の師範學校に於て全國師範學校教員に十二日間の講習をなしてゐる。また一方に於ては國民學校の教科書編纂を急いでゐる。國民學校用の新教科書として昭和十六年四月より初等科第一學年及第二學年を使用せしめ昭和十七年四月より第三學年及第四學年を使用せしめ昭和十七年に編纂方針を立案しそれゞゝ教科書の編纂發行を急いでゐるのである。(以上)

児童研究法講義(二)

第四高等学校教授 松本金壽

児童研究法の輪廓

一

一口に児童研究法と云つても、心理學・教育學・社會學・醫學といったやうな色々の學問領域からの研究法が含まれて居り、又夫々の學問領域の中でも、理論的な目的で行ふ研究法と實際的な必要から行ふ研究法では自らの違ひがありますので、是等すべてのものを網羅した要領のよい解説を書くことは却々困難な仕事です。殊に今日のやうに色々の學問領域が相互に分化發達して、専門家でも自分の専門領域以外のこととはよく分らないといふやうな情況の下では、この困難さは一層です。児童研究法といふこそが非常に大切な問題として採り上げられてゐるのにも係ら

ず、研究法全體の概説をいつたものが未だ作り上げられてゐない第一の原因と思はれます。

第二の點は、児童といふ概念が非常に廣く且つ漠然としてゐることだと思います。児童といふ言葉は日常用語にも學術用語にも使はれ、至極便利な言葉で誰にでも自明な内容のやうではあります、又それだけに非常に漠然として居り、使ふ人々によつて廣狹様々の意味が與へられて居ります。出生時から青年期までといふ廣い意味に用ひられてゐることもあれば、小學校在學期間中のもの即ち學童といふ意味に限つて使用してゐる人もありますし、未就學児童といふ言葉がありますやうに、極く幼少期のものを指してゐる場合もあるといつた工合にハッキリきまつた意味内容を持つてゐるとは限りません。それですから、そこからでも手がつけられ易い代りに一貫した體系が建てにくく、

嬰兒期・乳兒期の方は片附いても學童期の方は未了である
といふやうなギャップが生じ勝なのです。

第三の點として、児童そのものに對する研究の困難さ
が擧げられます。児童研究といふ何か一段と學問的水準
の低いもの、從つて又誰にでも出來る易いこのやうに
思はれ勝ですが、これは大變な誤解です。純理論的に云つ
て児童ぐらる研究の困難な對象は少いでせう。児童は我々
に違つて精神的にも身體的にも急激に變化します上に、自
制力に乏しい存在ですから、研究上のコントロールが難し
いばかりでなく、児童自身の經驗報告に多くの期待を持つ
ことが不可能です。從つて科學的研究法の最上のものであ
る實驗的研究法が遂行にくく、大部分は自然的な觀察に
頼らざるを得ない次第です。斯うした研究の困難さが、一
方において研究の結果を不明確にし、他方において研究の
進行を停滞させてゐます。一例を児童心理學の歴史にさつ
てみませう。児童心理學の最初の文獻はティーデマンの

「児童における精神能力の發達についての考察」ださされて
いますが、この研究が發表されたのは一七八七年ですか
ら、現代の實驗心理學の誕生よりも約一世紀も古いわけで
すが、それにも係らず、現代の児童心理學の發達は遙かに
遅れてゐる狀態です。

以上の三點の中、第一第二の點は児童研究の領域が廣大
であることを示し、そこに概觀への見透しを困難にする
直接の原因が潛んでゐるかのやうな印象を與へてゐます。
然し乍ら、よく考へてみると、児童研究への概觀を困難に
してゐる究極の原因は、寧ろ第三の點にあるのではないで
せうか。言葉を換へて云ひますならば、児童研究法そのも
のにまつはる困難さが、研究の全領域を明確に分化體系づ
けることを妨げ、漠然とした不統一を結果してゐるやうに
思はれてなりません。これは私一個の感想ではあります
が、アンダーソンも、児童研究がいつまでも童話的形態に
止まり、半科學的狀態に停滞してゐることを遺憾として、
研究法の確立を急ぐべきことを強調してゐます。殊に東亞
新秩序の建設といふ新課題を前にして、児童教育の全面的
革新が必要とされる我が國では、児童研究法に對して
新しい認識を持つことが一層大切であらうといふことに
ついては、前回の序言にも述べて置きました。

二

以上で児童研究法の必要さといふことの概略を児童研究
それ自身の觀點から述べてみましたが、それでは児童研究
法の内容は一體どんなものかといふことが次の問題となる
でせう。前にも述べたやうに、児童研究法の内容について
は未だ充分な體系づけが發表されて居りません。それです
から、初めに先づ大體の輪廓を述べて、凡そ見當をつけ

て置かうと思ひます。

人間に限らず生物一般の生涯の中で、身體的にも精神的にも児童期は目覚しい發達をする時期はないでせう。そして此の發達度は幼少に溯れば遡るほど一層著しいものであることは云ふまでもありません。それですから、精神の問題を取扱ふ心理學、身體の問題を取扱ふ醫學にさつて、児童は又得難い研究對象である筈です。児童心理學や小兒醫學といふやうな児童研究の分野は當然起るべくして起つた云々へます。然し乍ら、これは純理論的な推論に過ぎません。児童研究といふものゝ最も力強い動機になつたものは、児童福利の問題であり、児童教育の問題です。我々の児童は色々な學問的領域から研究される以前に、先づ何よりも教育されるべき對象であり、保護育成されるべき存在であります。これは個人的の意味からばかりでなく、社會や國家の立場から云つても同様でせう。

さうして、教育の對象としての児童は身體の方面とか精神の方面とかに分けられない全人的の存在です。クリスマスは児童に関する科學的研究一切を含めた學問を児童學(paidiology)と名づけ、これを児童教育の基礎學としようとしたことは周知の事實ですが、児童に関する科學的研究一切といふやうに間口を廣げて了ふま、結局のところ、一種の概念學となるか、色々の分化科學を綜合するといふ行

方をとるかの何れかを選ばなければなりません。クリスマス以来、児童學といふ言葉は屢々用ひられてゐますものの、今以てハツキリした内容を持つに至つてゐないのは、前項に述べたやうな事情に因るこゝ思はれます。そんなわけで、児童研究法といふのは、本來児童學の方法であるべき筈ですが、児童學それ自身の内容が未だ漠然としてゐる今日、児童學特有の方法といふやうなものを樹てるわけにはゆきません。そこで問題は児童に関する科學的研究を行つてゐる學問領域の中で、比較的纏つた研究法を持つてゐるものゝ中から基本的なものを組み立てゝゆくのが最上の道考へられます。

このやうな事情を考慮して、私は児童研究法の輪廓を次のように定め度いと思つてゐます。児童研究上、一番問題となるのは精神的方面の研究ですが、この方面的研究に重要な役割を果してゐるのは児童心理學と教育心理學でありますから、この兩者における研究法を述べることは、さうとも直さず、児童研究法の主要部分に觸れるこゝになると思はれます。それですから、私の児童研究法も、児童心理學と教育心理學との方法論を主體にし、これに身體測定法と社會調査法などを附け加へて、児童學の二大目標である教育問題と社會問題の研究に役立つやうな仕組に致し度いと思つてゐます。尤も、從來児童學の研究法とされてゐた

ものには測定法・臨床法・實驗法・治療及び診斷法等の大綱が示されて居り、児童心理學の方法論としても偶然的觀察法・傳記法・系統的觀察法・質問紙法・事例法・品等法・テスト・實驗法等の大別が示されてはゐますが、このやうな一般論は問題の具體的解決に直接役立たないやうに思はれますので、極く大體に止め、専ら記述の重點を具體的問題に對する研究法に充てる積りであります。例へば、児童心理學の

方法としては、運動機能・知覺・表象記憶・言語・思考・想像・

感情・意志等に關する研究法を述べ、教育心理學の方法

としては、素質・學習・練習・作業・環境の影響等に關する研究法を述べると共に、夫々の方面における代表的な研究結果にも觸れて、實際の適用に直接參照出来るやうに配慮し度いと思つてゐます。

【附記】 以上のやうな配慮の下に、出來るだけ實際の役に立つことを目論んでゐるわけですが、それでも注意不足の部分が出來ることと思はれます。讀者諸氏の御質問によつて、出來るだけ此の點を補つてゆき度いと存じてゐます。

おほおほ
大君の命かしこみ磯に歸り海原わたる父母を置きて

(防人)

おほおほ
母刀自も玉にもがもや頑きて角髪の中にあへ纏がまく
も

(防人)

おほおほ
防人に行くは誰が夫と問ふ人を見るが羨しさ物思ひも
せず(防人の妻)

第四回フレーベル賞審査發表（幼児兒童謠）

豫て募集中の創作幼児童話並に幼児童謠に對し多數の應募作品を寄せられ、いづれも熱心なる御好意に對し感謝に堪へません。前に發表して置きました通り、小川末明、及川ふみ、岸邊福雄、葛原齒、倉橋惣三、久留島武彦、六氏の嚴密なる審査の結果、豫告規定通り一、二、三各等各一篇と選外佳作十篇とを決定しました。その作品は順次本誌上に掲載します。尚ほ當選諸氏に對しては、規定通り、株式會社フレーベル館創業三十周年記念寄贈保育研究資金による賞品を贈呈いたします。遺憾ながら當選せられなかつた方々に對しましても、その御熱心に心から敬服いたして居る次第でござります。

童 話

一 等 鼠さんのお引越し

靜岡縣榛原郡金谷町相育幼稚園

相 田 多 惟

二 等 逃げない小鳥

栃木縣女子師範學校附屬幼稚園

佐 藤 久 子

三 等 紅ちゃん朝顔

漢口明治尋常高等小學校附屬幼稚園

福 山 隆

選外佳作

一 兄弟熊

二 雀と奴隸

三 お時計と虹の子供

四 みみづく

五 子供は風の子

六 蛙の子供

七 風さんの雪だるま

八 俊ちゃんの雨マント

九 鈴蘭つみ

十 山の小鳥

秋田縣女子師範學校附屬小學校 佐々木 敬太郎

東京市大森區若竹幼稚園 中野 靜

朝鮮仁川府山手町記念公立幼稚園 山本 フミ子

福島縣二本松町立幼稚園 真木 喜久子

東京市瀧野川區田端町三八〇山陽莊 荒井 志乃

群馬縣女子師範學校附屬幼稚園 吉井 正子

兵庫縣宍粟郡河東村 山本スマ

東京市麹町幼稚園 橫倉 文子

本願寺派函館龍谷幼稚園 河上 貞子

三重縣上野町立第一幼稚園 西口 志佳

童謡

一四

岡山縣津山市津山幼稚園 楠
靜岡縣金谷町相育幼稚園 相
茨城縣水戸市五軒幼稚園 土
東京市本郷第一幼稚園 田
正
多
草
惟子

一 等 ダルマサン
二 等 お 洗 灌
三 等 汽 車
選 外 佳 作

一 雪よ降れく

二 煙

三 てんとう蟲

四 春

五 ピアノのお道

六 お窓の雨

七 お 相 摺

八 電 信 柱

九 月

十 菜蟲小蟲

東京市滋谷區幡ヶ谷篠塚町 辻
東京市川内大工町 清水 あき
仙臺市入谷幼稚園 吉田 繁子
名古屋市立第一幼稚園 川口 幸子
東京市番町幼稚園 伊藤 トミ
山口縣防府市華城幼稚園 神保 逸子
東京市南高輪幼稚園 若宮 正世
靜岡縣三島町三島立幼稚園 森田 明子
大分縣大分市東光わかば園 坂本 レツ
大分縣大分市東光わかば園 坂本 レツ

選者銘々感

小川未明

【童謡】 童謡では、自然にうたはれて、朗らかで、單純で、分り易いものをいゝと思ひました。子供を題材にして、歌つたまゝよりは、むしろ、子供のうたふものとして、しかも清新にして、現實味の豊かなものを勝れてゐる如く感じたのであります。

【童話】 童話に於ては、子供は、すでに夢の世界に住めるものとして、たゞへば、いかなる生物をも擬人化して考へることに少しの不思議はないけれど、そのうちにも、おのづから空想の自然にして、想像力の豊かな、美しいものを良いと思ひました。知識は、尊重されるべきものに相違ないが、特に童話にあつては、詩化されるといふことが何より肝腎であります。今回の作品は、前回のものに比して、著しく進化の跡が認められました。

非常に喜んだのでありました。
【童謡】 童謡は、作曲するものとして作詩せられた方々、其點に注意の拂はれてゐない投稿がありました事は、募集の條件が不明瞭であつたかも知れませんが、作曲するものとして作詩なさる方が有利であるに感じた事であります。

一人して、數篇も投稿せられた熱心振りには感謝の氣分を厚くしました。

私共は、投稿の氏名を示されてゐない爲に、男性か女性かを、筆跡で想像するに止つてゐましたが、矢張り男性の方が優れてゐたやうに感じました時は、何んだか半片位の寂しさを覚えました。

×

斯様な、募集が、繰り返されますと、終には、隠れた方の投稿があつたり、新進の詩人の力作を拜見する事も出来たり。尙一篇宛の批評に對しては、やがて作詩を試みんとする方達の指針ともなりませうほぎに、更に回を重ねて、童謡童話の募集を希望する方共に、好いのでも拙いのでも、記名でも匿名でも、何んでもいいから、投稿されます事をお奨めいたします。

機會は、精進させますから。

今回の應募數も可なり多數であつたので、選者として、

岸邊福雄

×

【童話】 童話は、總じて序の段が長きに過ぎたのが、通

弊でありました。それと共に、結びが弱いのも共通していました。

中には、同人達の依つてゐる雑誌に掲載して、得々たる氣分の見えるものがあります。

童話にも、一人して六七篇も投稿してゐる特志家があり

ました。筆跡で男性を察せられましたが、文章も整つてゐて面白かつたが、話す話よりも、讀む話に作られてゐるのが多かつた。女性らしい筆跡で、話す話をして首肯出来る

一篇があつた。總じて、讀む話は、文章を飾らなければな

らぬが、話す話は、美辭麗句を、多分に並べる事は、聊か遠慮しなければならぬ。

あまりに、裝飾した文章を入念に話してゐる、事實が茫として、児童には話の正體が捕へられなくなる。殊に、幼兒に於ては然りであります。

×

今一つは、近年、児童の生活に即した話を話をさ、現實の話を唱導されましたが、それは文士派の人達の聲で、児童教育者側には、それほど現實に即した童話を要求してはゐない。何故なれば、児童は詩人である。詩の生活をし、藝の生活をしてゐる。幼兒の藝術の生活は、大人が唱導する現實生活に即したもののみ限られてゐる場合が多く

い。

それだから、兩方を探るべきである。

今回の應募作には、寧ろ、詩的のものの方が多い。それと共に、著しく感じた事は、夢物語り風のものが、殆んど姿を消した事であつた。是は、僕としては非常に嬉しかつた。

此後は、序、説明、頂上、結びと四段構へで作つて戴きたいのであります。而して結びに力をウニを入れてほしい。

葛原しげる

【童話】 幼兒に適する童話は、まづ童心豊かな面白さの溢れたる内容でなくてはなりません。次に、話の筋がハッキリしてゐなくてはなりません。そして、これは、書かれたる童話ではありますが、幼兒は、讀んで貰ふか、話して貰ふかしなくては、分らないのですから、その記述には、かなり特別の注意が拂はれてゐなくてはなりません。

さうした態度で、豫選されたる二十四篇を、熱心に讀まして貰ひました。そして童話と同じく、夫々によい作風のものゝ多い事を悦びました。就中、次の數篇は、私自ら、幼兒に、讀んで聞かせたく、話して聞かせたいと思つた佳作です。

『みみづく』幼兒の好奇心、おちつかぬみみづく、先生の

博物の説明の自然さ、殊に、みみづくの不安を同情させる話し方、そして最後に逃してやる事になる不自然の無さに敬服しました——唯鼻に傷をしてゐて痛さうな事を、少し、具體的に説明して、實感を出させたいと思ひます。また、女學校の生花は、花屋の出来事である爲に出したのですがあまり效果がありません。

『三匹の子犬のお手紙』よく馴れた筆致です。無駄がないです。三匹を二等分に扱つて、しかも、各の記述に於て充分、引きつけて行くところ、巧妙さいふ他ありません。一體かうした三つの對比法による童話は、昔から、甚だ多い形式ですが、これは、第一第二が「悪」玉で、第三が、「善玉」であるのに、始め虐待されたりして、後に榮えるさいふのでなくて、三つともみな、「めでたし／＼」なのです。しかし、第三だけは、自分で、自力で、安全境を求める事になつてゐますが、それは、稍々説明して明かにしないで、見落されさうです。或は、作者はさうした功利的な考へ方はして貰ひたくないのかとも考へますが、少くとも、結びは、枕元の照應上、これでは不足です。

『健ちゃん達と兵隊さん』前者と同じ作者のものらしいのですが、よく練れたタッチです。假作物語ともいふべきスケッチ風のものですが、幼児の、好奇心といふよりは、物見高い都會人の生活の渦巻の中に於て、わけて兵隊さんな

ら、そんな男の兒でも好きなので、取材も、最も自然です。また、兵隊さんも、レフハインされてゐますし、少しも、わざとらしくなくして、而も、禮儀もあれば、正しさもある中に、恩愛も溢るゝばかりで、まことに結構です。實は、私は、三十年來、よい童話を作りたくて／＼もち／＼してゐるので、疑問が多くて、まだ一篇も、會心の作を得ませんので、當分、童話の筆は執らない事にして、ひさしまのお作を拜見する時も、いつも、味つて／＼をります。そして世に著名になつてゐる作品を反誦しても、多くは、「大人」が、出すきてゐる事に、いよ／＼疑問を深めてをります。一層のこと、かうした兒童の世界のスケッチが、最も好ましいものであるかと、思つてをります時、本篇の如きは、最も、健康で、明朗で、しかも、愛もこもつてゐます。一層のこと、かうした兒童の世界のスケッチが、最も好ましいものであるかと、思つてをります時、本篇の如きは、最も、健康で、明朗で、しかも、愛もこもつてゐて誠に結構です。また、題も「健ちゃん達」と複數にした周到さは、大に、注意されなくてはならぬ日本語の名詞の書き方の一つです。

『鼠さんのお引越し』親二匹と子供三匹の、順々の記述が、聞く幼児的好奇心を満たすに充分であり、次々に、片付いて行く順序善さの快味は、けだし、大人や未經驗者には、想像もつかない幼児の頭の正しさの反映です。童話の中には、聞いてて頭を悪くされさうな、秩序の無い、順序の悪い、筋の入り亂れたものもある時、本篇は、かな

り長くとも、さうした不安がない上に、適當に話の山もあり、谷もあつて、かなり長くても大丈夫です。

「紅ちゃん朝顔」事變色の出でる唯一の作品でした。朝顔の新芽をも大切にしてやる日本人や、その児が、彼等排日黨の所謂「東洋鬼」^{タシヤシキ}でない事を説明し證明しようとした作です。たゞ、序のところでは、今少しく、説明がしてない、このまゝでは、きく幼児の不理解が後半を聞く氣持を、無くするであらうと案じます。「ホンちゃん」「バイちゃん」「チンちゃん」^{ミキ}にて其の音は面白くとも、目でみて色別の興味を感じる大人の、幾分でも、幼児が感じ得るでせうかは問題です。

しかし、反覆していひたいのですが、一體に、よい作が集まりました。そして、創作が、これだけ生れて來た幼児指導關係者各位の、ます／＼精進あつて、幼児のみはないのですが、特に、幼児のものは、本當は、一番大事で、また、一番六かしいのですから、幼児の唱歌は童謡と共に、幼児の爲の童話は、所謂童謡詩人や、童話作家である文藝人にのみ委さないで、幼児を日常手がけてゐる仲間からこそ、さうした童謡唱歌また童話の、いと／＼多く生れ出でんことを、幼児の世界の爲に、熱望してやみません。否、着々、かうして、既に、幾多の佳作を得た事が悦ばしくなりません。まことに私も勉強になりました。何で

も、早く童話創作のベンを取りたいものです。こ自らを鞭ちつゝ。

【童謡】 幼児唱歌に要望するものは、いふまでもなく、まづ可愛らしさ、美しさですが、また活々としてゐたく、真理に觸れてゐたく、又、同時に、見落され易い事の發見でもあります。しかしその表現は何事、つても、リズミカルでなくてはなりません。

かうした態度で此の度の選を進めましたところ、夫々に、よい狙ひでもあり、よい發見もあり、正しい表現のものが多くて甚だ愉快に存じました。殊に、多くが、幼稚園や托兒所また小學校の先生方の作品だときいて、實に多年、

童話も、童謡も、子供の世界から、自ら生れる。

こいふ事を信じてゐる私として、全く愉快の極みでありました。そこで、それ等の中で特に光つてをりました數篇について、短評を試みる事を求められましたが……

「汽車」は、用語に多少の不用意はあつても誰も知らない夜中でも、愉快に、ボソボソと走ること、お花を摘んでる子供が、その花を持上げて手を振るこいふ光景を悦びます。『春が來た』の題は、文部省唱歌の同じでない事を望みますが、此の内容は申分なくやさしくて、温かで、嬉しいものです。唯、第三節第一句の後半が、「七語」であつて作曲に困るところ、第二行の「お花」が、第一節の桃であるの

かそれとも他の花でもあるらしくて、印象不鮮明なのが、口をしいです。

「雪の雲」の元氣よさ。コドモは風の子でもあります、それ以上に、雪の子でありました。雪が降り出すと、悦びますことへ、この作にも其の嬉しさが隠されてゐて、愉快です。但し、第一節の「來た／＼」は「出た／＼」の方がよろしく、それも、第二節に對して、「出た／＼黒雲、雪の雲」など、第三節も「ふれ／＼」で起すか、「くろ／＼真黒、雪の雲」などしたら、よい曲が生れさうですね。

「お相撲」の元氣よさ。まことに結構ですが、各節の字脚が少しも考へられてるませんから、すぐ作曲は出来さうもありませんが、少しの工夫で大丈夫、ものになります。

「日の丸の旗」は、白地に赤く、の文部省唱歌もありますが、あれの抽象的なに比して、そして、靜的なに比して、この方が、されだけ、幼兒向であるか分りません。私の舊作にも此の作と同じモチーヴのものがあります、殊に「パンザイ／＼」で結んだ手法の同じで、驚嘆してります。私は、此度の多くの中で、これを第一等に推します。

「春」はすつきりした作ですが、そしてほんとに春らしい作ですが、第一節の桃ご、第二節の「小さいお花」ごが、ぶつかつてをり、第三節のお日様を「お縁の上で」ごしてある事が窮屈です。今一息のこころが、をしくてなりません。

其の他、今一息の洗練で、十分立派になるものゝ多い事を、惜しみもし、又、よい傾向の作者の作品の續出がこの社會に——多年、私の要望してゐるコドモの世界に——約束されてゐる事が分つて、嬉しくなりません。此の一回限で募集はなくとも童謡創作の事は續けられますことを、御祈り申します。

又、少しく餘事ながら、詩作は凡てさうですが、殊に幼兒唱歌は、概念で作つてはなりません。「シャボン玉」の一編に、シャボン玉に映つてゐるお家が廻り、木が廻り、坊やのお顔も廻る。といふのがありましたが、そんな事さへなくば、實に巧妙な作であります。

最後に、又いひます。

幼兒唱歌は、幼兒關係者の世界からこそ、生れるのです。それが、本當なのです。手先で作つたり、大人の趣味を強ひてはなりません。だからこそ、本誌の愛讀者各姉のこの道への御精進を祈つてやみません。

倉 橋 惣

三二

【童話】 私は童謡の方を先きに見ました。そのために、童話を読みながらも、どうも節がつくやうな口調になつて自分で可笑しくなりました。それよりも、童謡の詩性を童話に求め度くなるやうな氣分が勝ちました。その爲でせう

か。今度の童話に、さうも詩性が少ないやうに思ひました。

詩性といつて、何も、美しいロマンチシズムといふことを
に限る譯ではありません。現實話も大にいゝのです。事實
話もいゝのです。觀察話も此頃いたされてゐる類のものも
大にいゝのです。たゞしかし、それは幼児の世界に溶け込
まないといけません。幼児の世界に溶け込んだものは即ち
詩性の滲むものです。幼児童話である以上、かういふ注文
は無理ぢやありますまい。

その意味で、「鼠さんのお引越し」「逃げない小鳥」「良子
ちゃんごチューリップ」「雀ご奴鼠」「紅ちゃん朝顔」「兄弟
熊」「蛙の子供」なきを、面白く読みました。これらが優賞
の中にはいるかさうか。他の審査員諸先生の総合點できま
るこゝですが、一側面觀を言つて置くのも何かの御参考に
なりませう。少くも討論の種になりませう。中で、「鼠さん
のお引越」を一番詩性があると思ひました。たゞ、昔から珍
らしくない着想をいふことに一寸割引がつきますが。

何しろ、皆さん御苦勞さまでした。がもつて澤山の方
が、もつていろへいのいゝお話を、お子さん達に、いつも
いつもして上げてゐらつしやるでせうに。なぜ、それを出
して下さらないのですか。

【童謡】……は佳作が澤山ありました。たゞ少し長過ぎ
たり、構造の上から、幼児に歌はせるに適しないと思は

れたりするのが多かつたのは殘念でした。募集規定が徹底
しなかつたのがも知れません。

そこで、幼児に歌は得るといふことを考へて選ぶも、
たゞへば「ダルマサン」「ピアノのお道」「雪よ降れ〜」なん
かで一番に抜き出されます。いつもも幼児の爲の歌らしい
ですね。「お洗濯」「子供のお相撲」「雪の雲」「てんとう蟲」「お
窓の雨」「水首」「煙」なきつゞいて結構ですね。この他、ま
さによく出来てると思ふのが澤山ありましたが、餘りう
まく出来過ぎてて、幼児には?と思つたりもしました。
「お父さまのお手紙」「慰問袋」「ぬもんぶくろ」「ぬもんぶく
ろ」かういふ作品は、内容から敬意を表しました。いゝ時局
童謡は、ほんたうにほしいものですね。

かうは選をしましたが、實のところ、皆さんの、すぐれ
てゐるのに感心しましたよ。幼稚園にこんなに童謡詩人が
ゐるこゝは、大いに意を強くするこゝですね。こんな事を
いふと、葛原先生にニコノニニラマレルかも知れません
が、幼稚園の先生こそ幼児の心になつて歌へるものです。
幼児用童謡は、ヘタはヘタなりに、(失禮々々)幼稚園の先
生で作らうぢやありませんか。

サア〜 ウタへ ドシ〜 ウタへ
コドモ ヨウタへ コドモ ヨウタへ
ヨウチエンノウタチ――

サア／＼ ツクレ ドシ／＼ ツクレ
ホボサン ガ ツクレ ホボサン ガ ツクレ
ヨウチエンノウタチ――

さうです。此の調子でね。

久留島武彦

此の記念すべき童謡童話の選に當りて、繰返しても遺憾千萬にたへない事は、應募者の少き事、眞に子供を理解したる作家の無き事實である。

子供に聽かしむ可き話、子供の心に呼かける話として、其の作品をもごめて居るものに對して、與へられた大部分の作品は『必ずしも今回のみに限られた事ではないが』子供を觀察し、子供を材料として、大人が自分に聽かせて居るといつた話の多い事だ。子供がつた材料の取扱ひ方に、實は自分の童心を満足せしめて居る話が大部分であるといつても差支は無い。これでは子供には縁の無いものである、一向に何等の有難味も、嬉しさも感ぜられないのである。結局子供の求める話、子供の心に呼かける話では無いのである。

その點から云ふと、童謡の方は流石に子供の心の動きこそ彼等の環境に取材されたものゝ多い事は嬉しい事だが、たゞそれが唄にならぬ事だ、詩想の淨化をうけて居らぬ事だ。

文字の配列が、童謡の形式を踏んだだけで、歌心といふものが、其の根本にちつとも踊つて居らぬ事だ。一寸した興趣は感ぜられぬではないが、感興にまで盛上がる美しさがない。

それに文字の使ひ方、言葉の選み方が出鱈目が多く、如何に童兒語の形式をかりたゞ説明されても、其の作家一人のみが合點し得る他は、これを読み、これを使ふ他の者は一向に理解されぬ物の音色や、形の形容、摸聲を濫用されでは、假令ばケーン・眼をさましたゞか、頬べがボタ／＼さか／＼差向き子供にさつても其意味をささりかねるであらう。

尙最も多く眼立つは敬語の濫用暴用である。これは童話に最も多く、誠に困つた傾向で、一三の例を擧げる。『チューリップさんのお花』、「もう／＼」のお牛さん』、「野菊のお匂ひ』等さいふかご思ふさ、お社さいふべきところに神社さぶつきらぼうにやつてのけ、幼稚園の女の先生がカラ／＼大笑ひに笑ふであらう。其の心に呼かける問題も大事であるが、先づ耳に呼かける言葉の吟味だけでも、今少し眞面目に考へて貰ひたいものである。

六月の幼児童謡

葛原しげる



葛原しげる歌
黒澤隆朝氏曲

六月三いひましても、昔は五月、よく雨の降りつゞける頃です。幼兒も、ガラス障子の中から外の雨を見ては、早く晴れよさも祈れば、雨だれの手品師が、いろいろの音を立てたり、外の物みなを濡らして光らせたりするのを不思議がつて見る時です。

「雨だれ太鼓」さんは、勿論、雨の音です。どこかで、何かの上に落ちてるる雨だれの音を、そのままに、歌にしたのですが、きいてるる、ほんとに、ひつきりなしの、トンタンタン、トンタンタンです。全く、一生懸命のトンタンタンです。きつさ、雨だれ小人の踊る足拍子の音でもありますか。よくもく、疲れずに踊りつゞけるのですね、といつた氣持です。

——雨だれ太鼓——

トンタンタン トンタンタン

雨だれ太鼓が トンタンタン

一生懸命 トンタンタン

トンタンのおやねで トンタンタン

トンタンタン トンタンタン

雨だれ太鼓が トンタンタン

誰かゞぎこかで トンタンタン

踊つてゐるのか トンタンタン

(童、唱、名金曲集、一)

これに似たものにたんたら太鼓があります。これは、は

つきりさうしてか、軒下に、伏せてあつたバケツの底を叩く雨だれを見つけたのです。この音は、「タンタラタン、タンタラタン」と、仲々善い音なのですが、よく見るごと、このバケツは、古ぼけバケツであります。更に、よく見ますごと、この底には、いくつも穴があいてゐるのです。そんな粗末な、廢物のバケツでも、雨だれが叩くさき、かうも朗らかな、きれいな、面白い音が出るのです。凡そ、世の中には、眞の廢物はないものであります。さうかに、何かの役にたつ部分があるのです。極端に申しますと、人間の淺智慧では分りさうもない役柄が、積極的にか何にでも振り當てゝ有るのです。それを發見し得ないから、廢物だといつて、すてゝしまふかも知れないのです。よく研究もし、よく觀察もしさへすれば、少くとも、詩の材料は、ころんであるのです。幼児こそは、その發見者です。又、この一篇に流れてゐるユーモアも、幼児にさつても、悦ばれるところです。

—— たんだら太鼓 ——

葛原しげる歌
弘田龍太郎氏曲

さたんのやねから ポテ／＼おちては
太鼓を叩くよ 雨だれ 雨だれ
雨だれ おちては
たんだらたん

たんだら たんだら たんだらたん
たんだら太鼓を たんだらたん
太鼓は バケツよ 古ぼけバケツよ
底には いくつも あいてる大孔

雨だれ 落ちては
たんだらたん

たんだら たんだら たんだらたん
たんだら太鼓を たんだらたん

(幼年童謡集、三)

作者は別ですが、雨滴の音を、同じ擬聲で現はしたのがあります。雨だれ小人の國は、御祭禮で、太鼓を叩いてゐるのだ、さいふのです。まことに、めでたいこぎです。雨の日は、人間には、太鼓を叩く事が許されない雨の中で、雨だれ小人は、その上に踊つてさへをるので。そして蝶牛が、祭見物に來たさういふのです。羨ましい雨の小人の世界ではありませんか。

—— 雨だれ小人 ——

富原薰氏歌
黒澤隆朝氏曲

タンタラタン タンタラタン
タンタラ タンタラ タンタラタン
太鼓たたくよ 雨だれ 小人
小人のお國は お祭だ

タンタラタン タンタラタン
タンタラ タンタラ タンタラタン

をさり をさるよ 雨だれ小人

小人のお國は お祝だ

タンタラタン タンタラタン
タンタラ タンタラ タンタラタン

祭見に來た まいまいづぶろ

角の先つぼ 夕やけだ

(童、唱、名曲全集、一)

同じ雨だれの音でも、その落ちて當る物によつて音が違ふのは今更でもありませんが、太鼓で聞かないで、木琴に

たさへたのが次のです。これは、又、その音を「歌ふ」さも

いつてあります。木琴が歌ふのか、雨だれが歌ふのか、さ

ちらにしても、面白いですね——オヤ、この「歌ふ」といふ

のは、木琴でなく、雨だれでなく、「手洗ひ」ですね。さう

ですか。さうですね。しかも其の音の面白さ——ポンカン

ポンコロカラコロボン。あはゝゝゝ。おほほほゝゝゝ。

——雨の降る日——

川路柳虹氏歌
中山晋平氏曲

雨のふる日に ひざりでたたく
たたく木琴 ボンカンボンコロ

カラコロ ボン

あら／＼ あの子は づぶねれだ
柳の根かたで ないてゐる

(反唱)

かけましよ 鞄を 母様の
あさから ゆこのこ 鐘がなる

ビッヂ／＼チャップ／＼

(反唱)

雨雨降れ降れ 母様が
蛇の目で お迎ひ 嬉しいな

北原白秋氏歌
中山晋平氏曲

ランランラン

次のは、雨そのものゝ音でなく、雨の水たまりの中を、勇敢に歩く擬聲、擬態の面白さで繋いで進めた、幼児には少し長すぎる五節ものです。五節は、たしかに長すぎますが、しかし、その擬音の「ビッヂ／＼チャップ／＼ラン／＼」の反復で、つながれて飽くことなく歌へます。その他に、この内容は、友人への親切の敍事があつて、うれしく歌へるのもあります。

雨のふる日に ひざりで歌ふ
歌ふ手洗ひ ボンカンボンコロ
カラコロボン

(童、唱、名曲全集、一)

(反唱)

母様 僕のを
君君 この糸 さしたまへ

(反唱)

僕なら いゝんだ 母様の
大きな 蛇の目に はいつてく

(反唱)

(童唱、名曲全集)

此の六月は、地方によつては、螢のシーズンです。そして、螢こそは、「熱のない光」を發する事の他に、幼兒のみならず、大人にこつても不思議な存在です。美しくもあるものです。それで、大昔から、いろいろの童謡が残つてをります。そして、全國的に共通點のあるこゝも愉快です。

——螢來い——

千葉縣
野田町地方

夜は提灯たけのぼり
晝は草葉の露すつて

ホホ 螢來い

盛岡地方

ホホ 螢來い

そつちの水あ 苦いぞ

こつちの水あ 甘いぞ

この、盛岡地方のに、少し加へたのが、私の郷里、備後の中の山村のです。

螢來い 螢來い

あつちの水は にがいぞ

こつちの水は あまいぞ

あまい方へ 来い／＼

です。同じ廣島縣でも、更に西部のには、

廣島縣安佐郡古市地方

ホホ 螢來い

あつちの水は にがいぞ

こつちの水は あまいぞ

ホホ 螢來い

乳呑ます

ぶんぶん來い塵やらう

さいふのがあります、この「ぶんぶん來い」も、螢らしく

——螢來い時——

栃木縣
足利地方

ホホ 螢來い

行燈の光を

ちよいこ見て來い

この「山から來い」を「山みて來い」

さいふのは盛岡地方です。

螢來い 山から來い

なく、塵やらうは、ひさいですね。

次の「螢來いや、螢來い」は、親しくてよいですね。

富山市附近

○

ことです。又、「うまいぞ」といふべきを、特に上品においしいぞといつたのも少しく、氣がりすぎて、うま味がないやうに感ぜられます。

ホホ 螢來いや 螢來い
あつちの水あ にがいぞ
こつちの水あ あまいぞ
ホホ 螢來いや 螢來い
以上は、舊來の童謡ですが、近代のものの中に、

八波則光氏歌
平岡均之氏曲

——ほたる——

ほたる來い／＼ こい／＼こい／＼

提灯さげて やつてこい

螢の提灯 火が青い

消えたり ついたり ちら／＼

ほたる來い／＼ こい／＼こい／＼

こつちの露は おいしいぞ

螢の提灯 消えかゝる

團扇で あふげば ふうはふは

(童、唱、名曲全集、一)

右の第二節は、道具立が利きすぎてをりますが、螢の提灯は、たしかに、「消えたりついたり」である上に團扇であふげば、ふうわふわざ、たよりない事です。また不思議な

次のは、「螢々來い」の反覆を第三節ではあちこち呼聲にしてあります。前二節のは、共に、自らの呼聲です。その使ひ分けは、幼兒には、はつきり分らなくもありませんが、巧みに、使ひこなしてあります。唯、螢狩の歌としては、「あまいぞ」に對して「にがいぞ」といふのが多いところを「からいぞ」としたのは、苦心のある所でせうか。

——螢——

あちらにも 螢ごぶ

こちらにも 螢ごぶ

螢々來い 螢々來い

こつちの水は あまいぞ

そつちの水は からいぞ

螢々來い 螢々來い

ほたる呼ぶゝがする

あちらにも こちらにも

螢々來い 螢々來い

(童、唱、名曲全集、二)

更に、工夫されてゐるのは、次のです。「こつちの水はあ

まいぞ」などひ「こつちのきしはくらいぞ」「くらつて、その方へ、來い／＼、「さうふのです。「にがい水の方へは行くな」、「くらいきしの方へは行くな」ともいつた後です、極めて、分りやすい幼兒の理窟です。いえ、螢への親切です。

— 螢 ガ リ —

歌 並 曲
山 本 寿 氏

— かたつむり —

葛原しげる歌
小松耕輔氏曲

ほ ほ ほたるこい
こい／＼ こつちへこい
あつちの水は にがいぞ
こつちの水は あまいぞ
ほ ほ ほたるこい
こい／＼ 水をやろ
ほ ほ ほたるこい
こい／＼ こつちへこい
あつちのきては あかるいぞ
こつちのきしは くらいぞ
ほ ほ ほたるこい
こい／＼ 水をやろ

のある事が、最も珍らしく面白いのです。その他には、貝の家を脊負つて匍つて行くこゝ、その歩みの、極めて遅いこゝが、特徴です。さうした特徴を、すぐ、はやく、見つけるのが、幼兒の特徴でもありますね。

(童、唱、名曲全集、一)

(大正幼年唱歌、第五集)

○
この季節の動物の多い中に、幼兒に珍らしく面白いものに、蝸牛があります。それは、伸びたり縮んだりする角

見まはしながら はつて行く
角の先には 目があつて
頭の先には 知らぬ間に
二本の長い角が出る
見まはしながら はつて行く
角は のびたり ちぢんだり
目は かくれたり 出て來たり

「かたつむり」は、また「まい／＼つぶろ」ともいひ、「でん蟲」ともいひます。その名の面白さもありますが、いつも地面から遠くは離れないで、のろり／＼匍ひ廻つてゐ

るのですから、愛嬌です。殊に、それが、電信柱を考へ合はさせられ、山のてつべんを思ひ浮べさせるのですから愉快です。

— かたつむり —

相馬御風氏歌
弘田龍太郎氏曲

でんでん蟲 のぼれ

電信柱 高いぞ

世界中 見えるぞ

でんでん蟲 のぼるな

いばらの木には 刺があるぞ

松の葉は いたいぞ

でんでん蟲 おちるな

蕗のはつばは すべるぞ

敷石は かたいぞ

でんでん蟲 のぼれ

山のてつべん 高いぞ

赤い雲 ひくいぞ

(童唱、名曲全集、一)

これは又、柳の枝、さいつても、葉につかまつて、風のまに／＼揺られてゐるのであります。それが目についたのです。

それはブランコをしてゐるのだ見ました。幼兒は、對照物の何でもを、自分と同じ生活をし、同じ生命のある同じ

世界のもの信じてゐるので。何でも、彼でも、自分この間に、寸分の隙を感じないので。その呼吸が分らなくては幼兒の世界の行事も考へられません。何事にも手が出せません。

— 小さな蝸牛 —

アメリカ名曲

見える／＼ 蝸牛が見える

さここにく 蝸牛が見える

あれ／＼ 見える柳の枝に見える

ブランコ／＼ 蝸牛がブランコ

ゆれても／＼ 蝸牛は落ちぬ

おもしろ／＼ 蝸牛のブランコ

(大正幼年唱歌、第十一集)

○
この頃から、いよいよ活動の盛んになる動物に、蟻があります。蟻なんか、幼児童謡になつてゐないのみ考へてゐましたところ、大昔、でもありませんが、次のがありました。今から五十年も昔の「小學唱歌」の第一卷にあります。勿論、その頃の事ですから、文語ですが……また、修身めく歌ひ振ですが……。

— あ り —

ありをみよ やよ こざも
きものためには いのちをも

をしまで はたらく

けなげなさ

ありをみよ やよ こいも

さいふのです。これは日本音楽教育界の恩人といはれて
ゐる伊澤修二先生の作歌作曲にかかるもので明治二十五年
三月の上梓に成つてをります。しかしこれが今の世に、
すぐ役立つのはありませんが先人はやく、こんな方面か
らも取材してゐたことは、愉快です。

「この「けなげなさ」は、何でせう」

私は、修身の句はなくして、唯、如實に心がけまし
たが、しかし、「毎朝早く」から「毎晩おそく」まで、さいふ
勤勉振き前から引き、後から押し、又、力を合せて働く協
同心をも歌ひました。しかし、此の歌曲の面白味は、さう
した内容よりも、「チョロ／＼」といひ、「ゾロ／＼」といふ
擬態、及び、その曲の特殊である所にあります。

—— 蟻 ——

葛原しげる歌
梁田貞氏曲

大蟻 小蟻
チヨロ／＼／＼ チヨロ／＼／＼

毎朝早く 每晩おそく

○
（大正幼年唱歌、十）
この季節に限つたものではなくとも、此の頃、いよいよ
活躍するものに、蜜蜂があります。これにも、大昔に近い
明治十六年上梓されてゐる「幼稚園唱歌」に、一篇出てをり
ますが、極めて、道歌めいた内容になつてをります。そし
て、「戯れず」を「たはれず」といひ、「汝」を「な」といふなき、
雅語もかなり、在つて、これが何うして「幼稚園唱歌」なの
かと驚かされます。

—— 蜜蜂 ——

はちよ みつばちよ
花には たはれず
そが つゆ もちきて

チヨロ／＼／＼ チヨロ／＼／＼

ゾロ／＼ゾロリ

えんやらや／＼

前から ひけば

えんやらや／＼

後から 押すよ

力を合せ 分捕物を

えんやらや／＼

さこまで ひくか

かもせ ながみつを
こよや みつばちよ

春秋 たえせず

蜜をば つくりて

もてこ わがもさに

あはれ たのもしく

力を合せ

蜜をば つくれり

みよや みつばちを

これにも拙作がありますが、例によつて、あまり、總目

めいたことは並べないで、見たまゝに、事實を描寫したに
すぎません。そして、これも、ブン／＼＼＼＼の反覆に

よつて幼兒の興味をつないでをります。嘗ては、此の歌曲

は、専門家によつて、四部合唱にされた事があります。ま
ことに、元氣のよい、それでゐて高雅な曲趣になつてをり

ます。

— 蜜 蜂 —

葛原しげる歌
梁田貞氏曲

ブン／＼＼＼＼ ブン／＼＼＼＼

可愛いゝことよで 蜜蜂こゑよ

花から 花へ

ブン／＼＼＼＼＼ こびまはる

ブン／＼＼＼＼ ブン／＼＼＼＼
翅音をたてて あちらの花へ
こちらの花へ

ブン／＼＼＼＼＼ こびまはる
(大正幼年唱歌 第九集)

これも此の頃限定されてゐるのではありますんが、蛙
が、お玉じやくしから成長して、蛙らしくなつて來て、愉快

快な生活を楽しむ頃です。即ち、地上を飛んでる蛙も、

地上では満足出来ないで、池へ歸つて、皆さ、遊ぶ、といふのです。極めて、のんびりした、めでたい曲趣です。

— か へ る —

葛原しげる歌
小松耕輔氏曲

一つさんでは 兩手をついて

何か考へ 考へながら

蛙 きこまで かへつて行くか

蛙 かへつて 何して遊ぶ

池へ歸つて 游いで遊ぶ

池は 私の生れたところ

池の友達 游が上手

池へ歸つて 皆こ遊ぶ

(大正幼年唱歌 第二集)

中村正直先生五十年忌

——我國幼稚園創設第一人者として先生を偲ぶ——

倉 橋 物 三

本年六月七日は中村正直先生の五十年忌に當る。明治

文化の元勳としての敬宇中村正直先生の遺徳は、極めて廣き範圍に於て顯彰せらるべきである。しかも、われらは、我國幼稚園創設の第一人者としての先生の識見と功績とに對し、特に敬意を捧げざるを得ない。

明治八年七月七日の、我國に於ける幼稚園開設の第一建議は、時の文部大輔田中不二麿氏の名を以て伺ひ立てられてゐる。田中氏が當時の新人として、教育の最もよき理解者として、此の建議の實際の發案者であつたことに疑ひはないが、當時の事情を知るものゝ言によつて察すれば、中村正直先生も亦、少くも此の發案者の一人であつたらしい。而して、先生が我國で初めて幼稚園の開設せられた東京女子師範學校（今の東京女子高等師範學校）の攝理となられたのは、その年の十一月である。

先生はこれより前幕府留學生としてロンドンに學び、明治元年歸朝せられたのであつたが、廣く教育の制度を見て來られた中に、幼稚園のこゝも深い興味をもつて見えて來られたのであらうことには、先生の識見としても、殊

に先生の性格からも充分察せられるこゝである。

先生は東京女子師範學校の校長としては第二代であるが、附屬幼稚園創設の任に當られたのは先生であり、従つて、我國の幼稚園長としては最初の人である。しかも、それのみでなく、開園早々の明治九年十一月十八日の日々新聞には、ドゥアイ氏幼稚園論の概旨の譯稿を、つゞいて同二十四日の同紙上には、フレーベル氏幼稚園論の概旨の譯稿を掲載させてゐられる。職務上の管理者だけでなく、幼稚園に對する、眞の理解者であつたことがうかゞはれる。先生をして、今日の我國の幼稚園の發達を知らしめば、如何によろこばれることであらうか。たゞ、先生創設の幼稚園に重任を受けてゐる身としては、その當らざるを恥づると共に、先生の洪徳による御指導を益々祈つて已まない。

尙ほ私事に亘るが、私の伯父の一人は若くして直接先生の眷顧、誘掖を受け、その德化を幼き私に語り聞かせて呉れたものであつた。御縁を淺からずとして、特に偲ぶこころ深い。

感 激 の 一 幕

上 澤 謙 一

五月七日夜、鍛道ホテルで『岸邊禪兎名話集出版記念會』が開かれた。食事がデザートコースに入るや、いろいろな人の祝辭があり、終りに當の岸邊先生が立つて謝辞を述べたが、言半ばにして取出されたのは『幼兒の教育』誌二月號で、ベージをめくつて開かれたのは二七頁の倉橋先生執筆の『岸邊禪兎名話集』のところであった。

先生は『倉橋さんがかういふ批評をして開かれたのは二七頁の倉橋先生執筆の『岸邊禪兎名話集』のところであった。

『皆々々を眞似した』といふところでは、岸邊先生目を細められて、瞬間、自分のその語調に自分が聞き惚れるといふやうな恍惚境の趣がチラッと仄見えた。『著者の「お伽噺の仕方の理論と實際」が出了のもその頃だつた』といふところでは、思はず脣が縫びて破顔一笑といふ體。古き知己に今遇

つたといふ感じからであらう。『あの若い日の凝りを少しも緩めない』といふところでは言葉に力がはつた。自身力を入れられたところをハッキリ指摘されたので、自づからさうなつたのだらう。『うまさに對する感服よりも態度に對する敬服を榮じ得ない』といふところへ來ると『これだ〜、かういつてもらへたのは實に……』といつて、岸邊先生の言葉がちよつと途切れたと思ふ

下さつたから』と前置して、且つ読み且つ語らひつゝ話を進められた。

『皆々々を眞似した』といふところでは、

のためと稱して(中略)この書は確かに胸を開かせるもの』といふところはいかにも胸を開けたやうに朗々と讀まれた。このこと

見えた。

後進後輩の一人として、私は近頃これ程の感激を受けたことは先づなかつた。眞に花も實もある一幕であつた。

取らなければ』といふところでは、先生、長い顔を稍々垂めるやうにして目を光らせた。『ここだ〜、この通りだ』と、著者と

評者が氣合が合したといふやうな境地であらう。嘸す童話の範例として徹底的なるものであるといふところでは『徹底的』といふ三字に力がはいつて讀まれた。『徹底的』とはよくいはれた言葉だと思はれたのだらう。『自分の嘶とするために即ち嚴格な意味で』云々のところでは『この通りです。こを見ていただいたのは……』と、感無量の體。再びキラツと眸に光つたものを見た。

私は著者と評者とが今まで抱合傾倒した有様を今まで見たことがない。而も著者は我國童話口演界の大元老、評者は我國幼兒教育界の第一个人者。更に而もあの岸邊先生の涙を、かかる公會の席上で、私は初めて見た。

子供らしさと環境

波多野勤子

「この頃の子供はりかうでさてもかなはない」といふ言葉をよくききます。實際子供はなかなかよく理窟をいひ、又物知りでもあります。けれどもそれがあまり理窟つぼく、子供らしいところが少なくなつて來てはゐないでせうか、十年、十五年前の子供は、いまのやうに物知りではなかつたけれど、もつと空想的な、創造的な心をもつてゐたやうに思ひます。一體どうして子供達がさう變つて來たのでせうか。それには勿論いろいろの原因がありませうが、何よりも強い影響を持つてゐるものは御母様の「教育熱心」だらうと思ひます。教育に熱心なのはまことに結構なことでありますけれど、熱心なあまり、子供を實力以上に、いつも背のびをさせる傾向があります。全甲は無理なものに、何とか努力さして全甲をこらせ、中等學校も、無理にでも府立官立をのぞみます。私立には又私立のいゝところがあるもので、女の子など、以前は、府立のコチコチ、なきといつて、却つて私立のよさを親が認めてゐましたし、又從つ

て特に智的にすぐれてゐない子供は、その子供なりにいゝ私立を選んだものでした。ところがこの頃は中學校の傾向が女學校へも及んで来て、そんな苦勞しても官立、府立へ入れたい、といふ御母様方が大部分になつてしまひました。今度の新制度で、今までよりは一流きころをねらふ方々も少なくなつてきましたが、しかしそれさて、以前のやうに、子供の能力に應じて、満足して二流きころを受けるとか、私立のよさを認めてゐる方は非常に少なく、仕方なしにさうなつた方が多いやうでした。この子供を背のびさせる氣持がだん／＼小さい御子さんの方へも及んで来て、小さい中から、兎角智的につめこまうとすることが多いのではないでせうか。そしてそのため、子供たちは小りかうになり子供らしさがなくなり、理窟つぼくなつて來たのではないかでせうか。

幼稚園へ上の前後から、子供が質問をやたらにし、何でも聞いてみないではあるられないのは皆様御承知の通りで、私共にさつては何の意味もないことでも、子供は、そこに

意味を考へ、ふしぎに思つては質問するのであります。その中には全く答へやうもないものもあります。たゞへば私共の今度幼稚園へ上りました男の子が、何かの話のついでに、「オカアサマ、オヒカハセンセイハアンナニイセンセイナノニ、ドウシテ、バツテンテ、アンナニオモラヒニナツタノデセウ。」さしきりに心配してゐましたので、何のこゝかと思つてゐましたら先生の御召物の模様がばつてんなのでした。兄さあそんでも×のわるいこゝを知つてゐた子供は、さみして、入園考查の時に胸の紙に○をつけていただいたこの子にさつては、着物の模様も不成績の×に見えたのでせう。でもかういふ質問ですご親も笑つてますこゝが多く、説明することも少ないのでですが、「雨ハドウシテフルノ」「雷ハドウシテナルノ」なごゝいふ自然現象に關する質問や「自動車ハドウシテ走ルノ」「ラヂオハドウシテキコエルノデセウ」なごゝいふ器械に關する質問になつて來るご、兎角むづかしく教へこむ傾向がありはしないでせうか。子供たちはいろいろ質問しますが、必ずしもむづかしい説明を要求してゐるのはありません。さうして又自分であうじやないか、かうじやないかといふ、子供は子供に應じた考へを持つてゐるのですから、子供が質問をした時には、こちらですぐに説明をしてやることはさけ、なるべく子供自身にその質問をかへして、子供に解釋させるのが

よいのではないでせうか。子供に質問をされた時、「さあ、さうしてでせうかね」といつて、子供に考へる餘地をあたへるご、子供はなかなかうまい解釋をします。それはもうおなかを抱へるほざをかしながら解説をしてゐることもあるし、又大人がハッキするやうな反省させられるやうなこゝをいふこゝもありませう。しかし、子供に大人の側から何もかも説明してやるより、ざんなく子供の生活を子供らしくたのしくするこゝでせう。子供自身説明が出来なくて、さうしてもきゝたいやうな時にはその場で満足するだけのこゝを答へてやればいいでせう。幼稚園の先生方はたいていそれを心得てゐられるやうですが、あまり歴史のない幼稚園や、特殊小學校入學指導を看板にしてゐる幼稚園には、時々あまりに理窟を、説明を、教へこんでいらつしやる方もあるやうに思ひます。又それを母親が、さも子供が、りかうにでもなつたかのやうに喜んでゐるのでですから、子供達のスケールが年一年ご、小さくなつて、小さい大人が早く出来上つてしまふのも無理ありません。五歳の子供は五歳の子供として育て、七歳の子供は七歳の子供として取り扱ひたいものです。まして智能が特別にすぐれてもゐないのに、いろんなこゝを教へこんでしまつたら、その子は自分で伸びる力を失つてしまふでせう。

説明する態度で、子供に接してゐるご、子供は又研究心

を失ひ、したがつて何かする態度に熱心さが少なくなります。説明をしてやる態度は、つまり、子供に依頼心を起さして來るので、ちよつとしだこをやるのにも、出來なかつたら、大人にやつてもらふ、といふ考へがいつも動いてゐて、心を打ちこんで、ものをやることが少なくなります。又研究心が少なくなることはいふまでもないでせう。

都會の子供が、物知りでありますから、工夫が案外出來なかつたり、根氣がつゝかないのも、(勿論他にいろいろな原因が考へられます)、この親や又は周圍の者の説明してやる態度でのぞんであるといふことが大きな原因になつてゐませう。田舎では御母さんは忙がしくもありますし、又のんきであります。幼稚園があつても、托児所風のもので、教へこむやうなことはすこ少なくなります。それが却つて子供にしあはせになつてゐませう。

二

子供は子供らしく育てたいものです。しかしこゝで子供らしく、といふ意味は子供となるべくいつまでも幼稚のままで置く、といふのを理想にするといふのでは勿論あります。よく五六歳の子供のかはいのを見て、此の儘育たなければぎんないでせう、なぎこいはれる方があります。がいくらかはいからざいつてそのまゝでいつまでもうられたら大變です。五歳の子供が五歳の子供相當にふるま

ふからかはいゝのであつて、それと同じこを十五歳の人があつたら、かはいゝきじろではありません、まして兵隊検査になつた人が、みたところ幼稚園の御子さんと同じだつたら、氣味悪くさへもなりませう。子供らしく、しかもあくまで正しい發達を遂げなければなりません。つまり自分の力で伸びるのです。周圍の者は、その伸びる力を阻害しないやうに努め、一方それが正しい發達をさげるためによい環境をつくつてやるのです。よい環境といふのは、子供の生活内容を豊富にするやうにつきめてやるのです。さうしてたいして危険のないこなら何でもやらせておきます。これは大人の立場からいひます。手間ひまのかゝることでもあり、又不經濟の場合が少なくありませんが、子供のためには何よりも、育て方でせう。子供はいくら、はたで言はれても、自分で心からさう感じない中は、なかなか大人のいふことをきかないものです。いふことをきかせようと思つてヤイヤイいふさ、よけいに悪い結果をもたらします、けれども反対に、自分で経験したこに關しては、かなりはつきりと行動します。一例をあげます。私共の長男は、いくら言つても、決して翌日の仕度をしてねないので。さうしては、朝になつて鉛筆をけづつたり、カラーをさりかへたり大きさはぎです。まだ一二年の時は仕方がないと仰言の方があるかも知れませんが、それもこれ

も皆自分で出来る事なのに、たゞもうしても、前以つてそろへることが出来ないのです。三歳が一年生の時、丁度お休みが一日つゞいた翌日の事です、學校へ行かうとするのに、ズボンがさうしてみつかりません。上衣を着、ランドセルを背負つて、下だけ下パンツのまゝあづちこづちズボンを探してゐます、その中到頭時間が来て友達がさそひに来ました、代りのズボンはまだ洗濯やからかへつてきてるません。制服があるので他のをはいて行くわけにもいきません。到頭彼は泣き出してしまひました。家中大さはぎの末ズボンは思ひがけなく弟のタンスのしかもねまきの間から出て来ました。二三日前に田舎から來た女中が入れたものらしいのです。幸朝禮にも遅刻しなかつたらしいのですが、それでもこれで餘程こりたゞ見え、その後は、ざんにおそくなつた時でも、ざんに疲れてるても、洋服と學校道具をそろへない中はねないやうになりました。かういふやうな躰の場合ばかりでなく、知識を興へる場合でも、同様でせう。花を育て、犬を飼ふにも、子供自身のお仕事をその中へ割りふつておくと、子供は自分で知識を得ます。それは教はつてたゞ知つてゐるのとは違ひ、ほんとうにその子供の知識となりませう。さうして同じものを見、同じ経験をしても、五歳の子は五歳の子だけの、又七歳の子供は七歳だけのものをそこから採り入れる

でせう、そこに教へこみさまるで異つた效果があらはれます。

たゞへばお花を育てたゞしませう。小さい子供はたゞ毎日お水をやる、その御仕事だけで充分満足しませう。たゞへそのお花の成長がおくれても或は又、時には枯れさうになつても「水をやつてかはいがる、」その自分の氣持に満足してゐませう、少し大きくなると、芽の出方、花のひらき方にも關心を持つやうになります。同じやうにお水をやることにも五六歳になれば、お花が今日はさうなつてゐるか、といふことを心配します。六七歳になると、たゞお花をながめてゐるばかりでなく、お花の中をのぞいたり、蝶々がさうしてさまるか、なぞと不思議がるやうになりませう、畫をかいても下手な繪の中にも雌しへ雄しへがかゝれたりするのもこの頃です。このやうに子供が自分の生活中で、自分から起した疑問に發して勉強して行く時は、それはほんたうの勉強です。このやうにして得た知識は、これまでも擴がる、發展性を持つてゐます。そこに教へこみさまるで異つたたゞさがあるのです。發明さか發見さかいふものは、必らずこの様に、眞底からの知識を根底さしてなされて來たゞいふことは、今まで多くの人々の研究や調査で明らかです。子供を子供らしくのびくべく育てませう。

六月の保育

及川ふみ

六月の保育案を立てるに當つて、先づ心しなければならない事はこの月は雨天の日の多い事である。雨の晴れ間には出来るだけ戸外保育を忘れてはならないのであるが、大體さしては室内遊びの分量を多くおりこんでおかなくてはならない。わけても幼児の幼稚園生活のうち最も長い時間を過ぎ自由遊びの指導をこの時期に充分に考究しておいて終日の室内保育に倦かせない工夫をしたいものである。

多數の幼児相手の遊びは、興味の大小が各幼児によつてまち／＼であるからその選擇もむづかしいことがあるが次に數種の遊びをならべて見る。

六月の保育案を立てるに

魚つり遊び

保育室の一隅を釣堀にして積木なきで囲つておく。畫用紙或は古はがき等にてお魚をつくる。年長組の幼児であれば幼児自身でお魚を畫かせ、これを切りぬいて表裏二枚の間に新聞紙なきを細く切つたものを心に入れて立體的にするが年少組の幼児には保姆が様々の魚を作る事にする。鯛、平目、鰹なき幼児に刺りやすい魚がよいし、章魚、いか、蟹なき形の可愛らしいものも喜ぶ事であらう。數は出来るだけ澤山に作つて争奪戦のおこらない様にする。お魚の方には釣に都合のよいひつかりを作つておくのであるが針金なきでつりやすくしておく事である。釣竿は出来るだけ短いものがよい。絲の先の釣針は針金の外側に紙を巻きつけてあぶなくない様にしておく。

汽車ゴッコ

椅子を並べて汽車ゴッコ。切符賣場、改札口、驛の呼賣の箱、切符、商品なきの用意をして遊ぶ。車掌になるもの、運轉手になるもの、驛長、賣子なき相當幼児たちの活動する部分が多い。乗つてゐる乗客なきにも繪本を見たり、食堂車へいつたり遊べるところも相當にある。

魚釣り遊び、汽車ゴッコなき遊びを充實させるにはいろいろの材料も入用であるし、製作にも相當準備がいる。繰り返し／＼遊ぶのであるから物によつては出来るだけ丈夫

にしておきたい。比較的準備のいる遊びはこれ位にしておいて次は

さがしもの遊び（まりかくし）

鬼になる人を一人決めて、その人はお部屋の外に出てまつてゐる。少し大きい球を、ある一人の幼児のエプロンの下に入れる。モーイイヨーの合図で鬼を部屋の中に入れ。オルガンの音の強弱に注意して、音の強くなつたところの人には球がかくされてある事を説明して探させる。當らされたものが次の鬼になる。樂器なきのない室でこの遊びをする時は拍手の強弱によつて探すことにする。

尻とり文句

スズメメジロロババケツなぎゝ一同圓形を作つて云ひ送るのが本體であるが、年少組の人たちは大勢の人の次々にまわつて來るのを待ち遠しがつてなか／＼うまくゆかないから、メのつくもの皆が知つてゐるだけ云つて見て、又口のつくものを知つてゐるだけ云はせるさいふ風に變體の尻取文句遊びからはじめなければならないかもしれない。

椅子取り遊び

椅子を圓形に並べておいて、その椅子の數は遊ぶ幼児數より一つ少くしておく。樂器にあはせて椅子の外側を行進して、音の止つた時に椅子に腰をおろす。一つ椅子がたりないから席のない人が出來るわけであるから、一人づゝ人

數がへつてゆく。

花一もんめ、子とろ子とろ、こゝはどなたの細道ぢや、なご準備なくして大勢の幼児たちを遊ばせる事が出来る。この他に

十四の子猫（東日小學生新聞掲載）

一 子猫が十匹をりました

二 御覽の通り一列で

見事な行進トテトテトウ

鼠が一匹お出むかへ

中の子猫の一匹が

こいつ來たなご追ひました

そこで九匹となりました

子猫が九匹をりました

御覽の通り船にのり

お魚つりにゆきました

大きな魚がお出むかへ

中の子猫の一匹が

びつくり仰天海の中

そこで八匹となりました

子猫が八匹をりました

御覽の通りお捕ひで

御馳走の鼠を待ちました

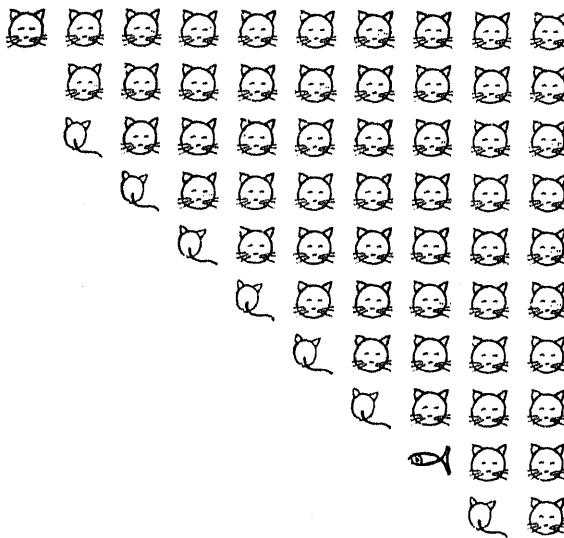
まんまる目玉で待つほきに

中の子猫の一匹が

お眠になつてグウグウグウ

そこで七匹となりました

四、五、六、七、八、九、十まで異なる文句でつづく
のであるが、幼児の程度には少しむづかしいので三番の文
句を十までつづけて、始めの子猫の数を一匹づゝへらして



ゆくこごにする。

一番、黒板に子猫の顔を簡単に十かきその下に鼠を一匹
かきそへておく。二番、子猫の顔を九つかき、その下にお
魚を一つかいておく。三番、子猫の顔八つに鼠を一匹。四
番、子猫の顔七つに、鼠一匹。五番、子猫の顔六つに、鼠
一匹。六番、子猫の顔五つに、鼠一匹。七番、子猫の顔四
つに、鼠一匹。八番、子猫の顔三つに、鼠一匹。九番、子
猫の顔二つに、鼠一匹。十番、子猫の顔一つ。

子猫の遊びは幼児たちはよろこんでしかも數の觀念も入
れられてよい。黒板にかいた猫の顔、鼠の形なき至つて簡
單であるから、幼児たちも真似が出来る。又幼児が子猫や
鼠になつて遊ぶこごも容易である。

以上遊びの種類をあげてみたのであるが、地方によつて
種々様々の室内遊びもある事であるから適當なものを數多
く考へてみたいものである。さにかく室内保育の多いこの
期には、一組二組位の少人數の簡単な幼稚園ならば大した
事もないが、數組の多人數の幼稚園であつたり、小學校の
附屬幼稚園で教室と保育室とが隣り合つてゐる様なところ
では、自由遊びの指導を充分にして、近所の保育や授業の
妨げにならない様にこの點餘程留意する事を忘れてはなら
ない。

(土)

明治神宮遙拜式

君が代 齊唱

明治神宮遙拜 祈願

メイヂテンノウサマ

ニツボンノクニヲマモリクダサイ。シナディクサチ

シテキルニツボンノヘイタイヲマモリクダサイ。

エウチエンノミンナデオネガヒタシマス

紙仕事 動物の切りぬき つゞき

第一週 六月三日—八日

(月)

お話 日曜のここの話合ひ

自由画

日曜日にあつた事

これは漠然としてゐるから幼児たちに畫く着眼點の端緒を見つけてやる。家にをつたもの、外出したもの

もその一部分をかきあらはせばよい。始めはごく簡単なものにすぎないが度々これをくりかへしてゐるところがける様になり観察も細くなつてくる。

(火)

観察

デンデン蟲

唱歌

デンデン蟲

遊戯

デンデン蟲

(水)

紙仕事 デンデン蟲の切り紙

ラヂオ 童話

ヌリエ ウチハ

(木)

お話 三匹の子豚

新聞粘土 果物 さくらんぼ

(金)

唱歌 デンデン蟲

遊戲 デンデン蟲

自由画

(土)

ラヂオ 童話劇

紙仕事 自由

第三週 六月十四日—十五日

この週より入梅であるから、毎日の天氣模様を色で表はして保育室に記録をさつておくことにする。

お話 梅雨のここの話を簡単に話す

自由画

(火)

唱歌

遊戯 雨

(水) お魚つり遊び

新聞 粘土 果物 色ぬり

(木) ラヂオ 童話

お話 サルカニ 合戦

(金) 自由画 サルカニ

唱歌 雨

お魚つり遊び

(土) 紙仕事

サルカニ

(月) 第三週 六月十七日—二十二日

十匹の子猫の遊び

自由画 十匹の子猫

(火)

唱歌 サルカニ

遊戯 サルカニ

(水)

汽車遊び

お話 牛若丸

粘土 きうり

(木) 汽車遊び

スリエ トマト

お魚つり遊び

(金) 唱歌 サルカニ

遊戲 サルカニ

自由画

(土) ラヂオ 童話

紙仕事 野菜の切り紙

(月) 第四週 六月二十四日—二十九日

お話 明二十五日皇太后陛下御誕辰についてのお話及び

日曜日の話合

紙仕事 お魚つくり

(火) 唱歌 サルカニ

遊戯 サルカニ

(水) 粘土 なす

(水)

お話 浦島太郎

紙仕事 お魚つくり

(木)

自由畫 浦島太郎

魚つり遊び

(金)

唱歌 筐舟

遊戯 筐舟

椅子取り遊び

(土)

お話 タンボボノ三ツノ種子

紙仕事 お魚つくり

この月の保育案は天氣の都合によつて度々變更する事が
ある。考へられる。室内遊びの魚つり遊び、汽車ゴッコな
き考へても、お天氣がよければ外遊びになるのは當然
のことであるから適當に臨機の處置を取るべきである。

五月には幼兒自身の姓名をかゝせる事をこゝろみたが、六
月には子猫の遊びで――十までの數の觀念の意識を強め
たい。

ハツ手の弓矢

ハツ手の若葉が大きくなつてきました。去年の葉は黃色

くなつてだん／＼に落ちてゆきます。幼稚園の庭のハツ手の落葉はいつも幼兒たちのよいおもちゃになつて、天狗退治の團扇、お角力ごつこの軍配などに使はれます。今年はこれで弓矢を作つて遊んで見ました。葉の柄一本で、弓矢にしました。古い包紐で簡単に弓弦をつくりこれに矢をあてます。的も即席で庭の木に幼兒に丁度よい位の高さに、ハツ手の葉をしばりつけます。弓も矢も鋭くなく丁度幼兒むきの強さの、あぶなくないおもちゃです。弦を強く引きますと弓がおれますが次々さとりかへてもよいし、しばらく遊ぶのには程よい弓矢です。

○中村正直先生遺徳顯彰會

明治文化各方面の大先驅者たる中村敬宇先生は、我國幼稚園の創設者でもあります。本年が五十年忌に當るので、

井上哲次郎氏、中山久四郎氏其他及び本會の倉橋主幹等實行委員として、左の通りの儀が行はれます。幼稚園關係の方々もその遺徳を偲び參會を希望します。

六月八日 午後一時より二時まで谷中墓地に於て墓前祭

同午後三時より上野精養軒にて追憶坐談會及晩餐會。遺墨遺著展覽。

六月八日 午後一時半より東京女子高等師範學校講堂に

て講演會（講師井上哲次郎、三宅雄次郎、尾佐竹猛三博士）

六

月

の

聲

J O X K

先生、お無沙汰致しました。

四月五月は夢中で過ごして、漸くホツト一息かいふ所でござります。

四十人近いお子さんのお名前はなか／＼一三日では覚えられませんでした。百に餘る園児全體の名前はまだ覚え切れないので有様です。「先生お早う」を飛びついて来る子は本當に可愛らしく抱きしめてやりたくなりますが。

なだめても、すかしても、泣きやまないで、引搔いたり、

蹴つたりして、こちらが泣かされさうになつたお子さんも今では元氣に遊ぶ様になりましたが、毎朝心配で、御機嫌いかゞこまづ顔色を探る様な次第でござります。

「さくら／＼彌生の空を」と、輪を造りながら、ボンヤリ立つてゐるお子さんや、入りたさうにもじ／＼してゐるお子さんを一人づゝ殖して次第に大きくなつてゆく輪を氣持よく廻つてゐるが、中には誘ふと逃げ出してしまふ子もある。

つて淋しい氣が致します。

誘ひ方が下手なのでせうか、誠意が足りないのでせうか、自分では一生懸命の積りで居りますが、…お子さんの性質の故でせうか。

ふと砂場の側にボンヤリ立つてゐるお子さん、ブランコの動きをいつまでも眺めてゐるお子さんを見てハッキ致します。

何時か先生の仰有つた、手のかゝらない、それでゐて飛びついても來ない種類のお子さんです。本當にさうかする一日も一日も口をきかずに、或ひは氣持の觸れ合ふ折もなく過ぎてしまつたのではないかと思はれます。

愛情の表現に依つて親しみが増されるご仰有いましたのを思出します。技巧を用ふるごいふご語弊があるけれど、たゞ愛情を持つてゐる丈ではいけないご仰有いましたね。

「一人／＼ご詰合ふ折がなかつたら、通りすがりに、名

を呼ぶ丈でもいゝし可愛いほつぱたに軽く觸れてニッコリ笑ふ丈でもいゝ、又一寸頭を撫でゝみてござらん下さい。」

・子供もきつさうれしさうに笑ひますよ」ご仰有つたのを思ひ出して、ちつとも笑はないお子さんの頭を撫でたら、いや！つごいはん許りに頭を振られて、ニッコリしようと思つた笑顔を自分でさう處理した事でせう、きつさ泣笑ひの様な表情になつたのでせうご思出しても冷汗が出ます。

全く、何をするにも、工夫ご努力よき仰有つたごが、一々が身にしみて思出されます。

「仕事は勿論大切だけれど健康ご境遇の許す範囲で……」

ごこれも先生の口癖の一つとして耳に残つて居ります。

本當に、毎日々々夢中になつて、朝は早く家を飛び出しつしまひ、夕方は晩くなつて歸り、夜は疲れで何をする元氣もなく床にもぐつてしまふ其日々でございました。

家事の手傳ひはおろそかになり、手紙の返事もついそのままになり、洗濯物は山さたまる様になつて、はじめの中は、「さぞつかれる事でせう」……といたはつてくれた誰彼ものこの頃では「そんなに明けても暮れても幼稚園々々々取りつかれた様になつて體を悪くしたらどうするのだ、あなたはそれでいゝごしても側の人のごこちも考へたら……」

さいはれる様になりまして、ついうか／＼ご過した事を反

省させられて居ります。

保母であるご同時に、娘であつたのだ改めて、思つたりして居ります。

はじめて、責任のあるご同時に、自由な立場に置かれて、あれもこれもしてみたく、又何をするのも心配な様な氣が致します。

何をきいても、返事もろくに出来ない様なお子さんが、自由畫の時、素晴らしい内容の豊かなものを描いたり、ざんなに上手に出来るだらうと自由遊びの動作から推して考へてたお子さんが、何にも描けないといつてクレオンを放り出したりするのを意外に感じて居りましたが、静に考へてみますと、意外と感じた自分の觀方が足りないのでござつたことがだん／＼に解つてまゐりました。

それから、先生がよく仰有つていらつしやいましたね、「皆が、世間が子供をいたはり過ぎるごいふより正しくいはらない。本當の親切が足りない……」

老人は寒からうごいつて無暗に着せたがるし、實際家でない教育者は何かざいへば幼稚園の子供には無理だらう／＼ご、一概に出来ないごとにきめてしまふ傾向があるけれど、やらせてみれば無理のない程度にしても相當やるものだ」……。

たつた二ヶ月の経験者としてもうなづけるごこでござい

ます。

同時にまたこんなことはわけなく出来ただらうと思ふ

案外、こちらの思ふ様に動いてくれないのでこれはやはり無理なからしさと思つてよく考へてみます、する事は無理ではなくて、私のやり方に無理があつたことを悟り、つづく子供の扱ひには、最大の準備で細心の注意が必要なものだを感じさせられました。

昨日、あるお子さんのお家からこんな手紙がまわりました。

大體の意味は、自分の所では小學校へ入るまで、字を數へないで置かうと思ふのに幼稚園へ上つたら、すぐ字を教へてくれといふので、何故かいつたら、他の子は自分で名前もかけるし、繪本の字も読むのに自分はかけないし、読めないから困る、といふが一體幼稚園ではもう文字を教へてるるのか、とにかくうちの子には絶対に教へないで貰ひたい。」

いふ意味なのでござります。

實習に伺つて居りました時、

「幼稚園に折角入學せしものなれば、少くも一年程度の讀方算術を御教へ下されたくない……」

いふ註文が來たご先生が苦笑して居られたのを思出しました。

何故文字いふものに對しては考へ方がかうも六ヶしいのでございませう。

それからこの月に入つてからそろへお母様の苦情を聞かされます。

「入園するまで、馬鹿なごとく言葉を使つたことがないのに、近頃馬鹿野郎なごとくことを覺えて困る、御近所に對しても恥かしいから氣をつけて下さい」

「幼稚園で大きい人にいぢめられないとこ思ふのですが、今までいぢめたここのない妹をいぢめる様になりまして……」

「〇〇さんがいぢ悪したから幼稚園へのくのがいやだといひますから」「△△さんが押したから、いやだといふで、老人がいやなものは無理に行かせては可哀想だからやめさせろと申しますので……」

等々、何でも聞かせて貰ふのは大變参考になつてよいのですが、押されたからやらやめるといふのでは集團生活といふものがまだよく理解されてゐないことを思はせられます。我子丈が無事平穀に過してゆくことを願つてゐる親が相當に多いのでございませう。

それから一つ困りましたのは鉄を使はせましたら、誰か女の方の髪を切つたといふことで……

「誰かどういふことで……では誠に、無責任の様な言ひ

方ですが事實御承知の様に四十名近い年少組を預つて居ります。一寸一々氣をつけて居られないのです。知らないで居りましたら髪の毛を切られた女の子が二一人、或は外にもまだまつてる人もあるかと思ひます(が)あつたのでござります。

年少組に鍼を使はせるのは早過ぎたのでござりませうか。幸にまだ怪我はないのですが考へるごとに仕出されるか恐ろしくなつてあります。

體格検査を致しました時には驚かされました。

豫告してあつたのに、ボタンの一つもついてないシャツ、ブーンミ臭ふ様な下着を着せてよこします。それでお母様はさいへば紅く白く塗りたてゝ居ります。
 オヤ／＼といふ程の厚着、そんなに限つて中から現れるのは、青い皮膚に骨が浮いて居りますことは、先生には申上げるまでもなく御存じの事でござりませうが、それも今はみんな、自分の責任の様な氣がして、お母さんにはいはなければならぬ、おぢいさんにも話をして上げたいとやきもきしてしまひます。

お辨當のおかづを眺めて、考へさせられ、云ひ度いこそが多過ぎて一そ眼をつぶつて見ないこにしたら氣が樂だらうなさゝ卑怯なこさへ考へてしまひます。

それから、遂ひ四五日前ですが、こういふことを言ふお父さんがありました。まだ二ヶ月しか立たないのに、家の

子供はどうでせうかと聞かれますから、その御子さんは何の特色もないが、おとなしい良くもなし悪くもなし云ふ状態ですから、先づ無難にと思つて、よろしうござります。お返事を致しましたら、そのお父さんは我が意を得たりと言はんばかりに、

「うちの子は實際いゝ子です。近所からも苦情を言はれたりはないし、家でも手がかゝらないです。全くうちの子には幼稚園と言ふものは必要がないと思つてゐるのです。でも折角入つたんだから続けて見様と家内と話し合つてゐます。」

さうして話されました。このお父さんなさは、相當に幼稚園と云ふものを理解出来るインテリ層の方だと思つてゐましたのに、この御挨拶を受けましたのがつかり致しました。このお父さんにして、幼稚園の子供同志と云ふ環境や、保母の心の中に計畫し期待してゐる教育意識と云ふやうなこなぎは夢にも考へては下さらないのです。ござりますものね。

かうして久々で先生のお顔を思ひ浮べ乍ら御報告やら、懼みやら申上げて居ります。果しがない程でござりますが、また、「まだ起きてゐるのか」といはれさうでござりますから今日はこれで失禮いたします。

何か御指導願上げます。

かしこ

幼児の母



昭和十五年六月

母のことよみ

雨と子ども

○子どもは雨を苦にしません。雨なんかおそれさせてはなりません。着物のぬれることなどなんか気にするやうな元氣のないことではいけません。しかしそれは子どもの方のこと、ぬれた着物やからだをそのままにして置いてはなりません。雨具をよく行届かせるのは親の役目です。

○子どもの健康は皆さんが全力を捧げて進めてゆきます。あなたの健康は、御自身で護るほかありません。それも一刻の怠りもなまけも出来ない母のつとめの間には譲らなければなりません。自ら護るといふと自分中心のやうにも聞えますが、もた、天氣の時と同じやうに樂しませるのは一と工夫ですね。おはなしも澤山用意しておきませう。繪本も新らしいのをそろへませう。が、そんなじつと坐つてゐることばかりでなく、運動不足にならないやうにしてやらなければなりません。多少のぎたばた位叱つてはいけません。

わが子の生活の一切に行き届いてゆくために、母のつとめは容易ならぬものですが、それには、何よりも先づその健康がもとでせう。たゞ子どもの世話といふばかりでなく、その心の教育をかたよりなくしてゆくには、母は疲れを知らない健康をもつてゐなくては出来兼ねませう。わけても、わが子の氣もちを楽しめし、勇ましくし、引きあげてゆくのに、母の健康な顔色は、何ものにもかへ難い程の大きな力をもつものでせう。

子どもの健康、それはいつも強く呼ばれてゐることですが、母の健康、これこそ

四七

幼稚園でしてあること(二)

手技いろ／＼

倉橋惣三

栄養研究所

佐々木理喜子

近頃の御飯の中には外米が混入されてゐますが、内地米と栄養価は殆んど變りはありません。唯ビタミンBがありませんで、七分搗米乃至は半搗米等に混入するとよろしいと思ひます。外米は水分が少いので水加減を多く致し、又一割位糯米を混入するとボロ／＼せず、臭氣も感じない様になります。御冷飯は御飯蒸でよく蒸しますと美味しくなります。

① そら豆御飯
材料 そら豆三〇瓦 櫻海老七瓦 玉葱四〇瓦 油三瓦以上で蛋白質八・六瓦 溫量一〇四カロリー

「幼稚園では始終お細工ごとをおさせになりますのですね」
「お細工」と……
「紙細工、板細工、粘土細工……」
「シンコ細工、アメ細工……」
「オホ、～、あんなことおつしやつて」「だつて、細工といふとすぐ思ひ出しますもの」
「それでは、何んと申しますので」
「兎に角く、細工といふと指さきの器用仕事のやうにばかり聞えて、面白くありますね」
「先生は大層手がおきらひですね」
「手がきらひな譯じやありませんが、手は手なんかで仕事してゐるのぢやありませんもの」
「では足で……」
「奥さんも、私にかぶれてお口がわるくすが」
「おりですねハ、～、」

「御免あそばせ。オホ、」

「手だの指なので何が出来るもんす

か。頭ですよ。心ですよ。工夫ですよ。

考へですよ。それより先づ、作りたいといふ氣もちですよ。ですからね、幼稚園でいろいろのものを作らせてるのは、手や指の教育ではなくて、もつともとの方の教育なんですよ」

「ハアー」

「ですから、器用だの、技巧だのといふことは、大して問題にしないのです。もつと大きなことなんです」

「それで、あの大きいものをおつくらせになりますのですね」

「大きなことと申すのは、目的の大きい

ことで、形の大きいことではありませんが、小さなことをばかりさせるといふ

小器用、小技巧、になり勝ちですから、大きなものの方が、一ぱいの力もはいります」

「子どもは一心ですからね」

「それ／＼、その一心にものを作るといふことが大事なのですね。或は又かう言

つてもいいかも知れません。ものを作る

ことによつて一心になる爲に」とね」

「さようですか」

「同時に、工夫する。創作する。その心

の發達が大事なのです」

「宅の子なんかへたくそのかせに」

「これはおきびしい。わたし達から見ま

すと、たゞこじるか、その着想に驚かされることは多いのです」

「でも先生」

「兎に角く、上手々々、うまく／＼、といふことだけで見てはいけませんよ。少

いふこと、もお子さんは、見せものにしようと思つて作つてあるのぢやありませんから

「大きなことと申すのは、目的の大きい

こと、形の大きいことではありませんが、小さなことをばかりせるといふ

小器用、小技巧、になり勝ちですから、

大きなものの方が、一ぱいの力もはいり

ます」

「これは驚いた。幼稚園の成績品。」

「あら、では、何んと申しましたら「作品ですね」

ても結構です。

② キャベツ巻、ポテトの煮付け

材料 燥三五瓦 茎いんげん二〇瓦

人參一五瓦 キャベツ四〇瓦

六瓦 溫量一〇四カロリー

調理法 繊は小擦でよろしく頭や骨を

取つて身を細長く切ります。莖いんげん

は條を取り短いのは其のまゝ、長いのは

二つに切ります。人參は細く纏切ります。

人参と莖いんげんを一緒にして一寸と油

で炒めます。キャベツは一葉をさつと熱

湯を通して軟げ、麩、人參、莖いんげん

を中心にして巻き込み、砂糖、醤油で味付

けます。汁をよく切り、程よく切つて御

辨當に入れます。ポテトは別にして此の

煮汁で煮ます。

③ 明いりと野菜

材料 鴨四〇瓦 生鮭二五瓦 キヤペ

ツ二〇瓦 人參一〇瓦 油少々

以上で蛋白質八・八瓦 溫量一〇七カロリー

調理法 生鮭を細く切り油で炒めてか

ら鴨一個をほぐして加へ、鹽、砂糖で味付けていり、鴨を作ります。キャベツ、

人参は細く刻んで煮付け附合せます。

「へエー」
「作品も少々エラすぎますか。それより、箱なら箱、お家ならお家、人形なら人形でいゝぢやありませんか。子どもはそれを作らうと思つて作ったのですか

「ほめますことは」
「ほめたりなんかしなくていいでせ

「でも、ほめてやると喜びますので」

「そりやあ、悪い氣もちもしないでせうが、ほめるのも出来ばへなほめるよりも、何を作らうとしてゐるか、その心もちを認められるがいゝですよ」

「でも、ほめてやると喜びますので」
「そりやあ、悪い氣もちもしないでせうが、ほめるのも出来ばへなほめるよりも、何を作らうとしてゐるか、その心もちを認められるがいゝですよ」

「これはおそろしい」

「では」
「おゝがあいらしい。でいゝぢやありますか。箱でしたら、何を入れませうねえ。家でしたら、お人形さんのお家ですか、お人形さん喜ぶでせうね。といつた具合に」

「喜びますとも。成績乙なんていやですね。甲だつていやですよ。折角一心に作つたものを、いきなり點數で鑑定されるなんて、子どもだつていやできあ」

「つまり、まづくてもよろしいので」
「まづいがいゝといふ譯はありませんがね」
「上手下手以上の意味がござりますの

「そうぞ。左様々々。手藝學校附屬幼稚部ぢやありませんものね。」
「ホー、まさか、誰れもそんなこと」

「でも、練習々々、器用々々、成績々々、上手々々、なんてばかり言つてゐると、つまり、そんなことになつて仕舞ひますよ」

「まさか、ホー、」
「へへへ。これはじやうだんです
が、幼稚園でしてゐる事のほんたうの意義が、御家庭でもよく分つてゐて頂けな
が、この本をおすゝめしたいものです。
藤田さんの苦心で總力タカナで、小學校の子どもには自分で讀めるやうに出来てゐます。お母さんのいゝタネ本として、幼児にも話して下さるといゝと思ひます
折角の教育目的が通りませんからね」

挿繪は幼兒向きにすべきです。

おはなしの庫

建国のおはなし

○カミサマノオハナシ 藤田美津著
大阪市住吉區赤橋幼稚園母の會發行
上下各二卷 定價貳圓六拾錢

ことしに限つたことではありませんが、わけても此の二千六百年。我國建國のお話を子どもにどうしようか。古事記をまる讀みにしても分らないし、がしかし、いゝお話はその中に澤山ある。それを子どもに向くやう書きなほした本が此の本です。他にもいろいろあります

が、この本をおすゝめしたいものです。

藤田さんの苦心で總力タカナで、小學校の子どもには自分で讀めるやうに出来てゐます。お母さんのいゝタネ本として、幼児にも話して下さるといゝと思ひます

「子どもも喜びませうねえ」

「喜びますとも。成績乙なんていやですね。甲だつていやですよ。折角一心に作つたものを、いきなり點數で鑑定されるなんて、子どもだつていやできあ」

「つまり、まづくてもよろしいので」
「まづいがいゝといふ譯はありませんがね」
「上手下手以上の意味がござりますの

「そうぞ。左様々々。手藝學校附屬幼稚部ぢやありませんものね。」
「ホー、まさか、誰れもそんなこと」

「でも、練習々々、器用々々、成績々々、上手々々、なんてばかり言つてゐると、つまり、そんなことになつて仕舞ひますよ」

「まさか、ホー、」
「へへへ。これはじやうだんです
が、幼稚園でしてゐる事のほんたうの意義が、御家庭でもよく分つてゐて頂けな

が、この本をおすゝめしたいものです。
藤田さんの苦心で總力タカナで、小學校

母の受難時代

「幼時の追憶」、その七

曾根保

母の手

某婦人雑誌には毎月、名士の「母を語る」記事が載つてゐる。私は興味深く拜聴してゐるが、いつぞや、詩人西條八十氏が貧しい母の姿を描いて居られたのに接して、感慨無量であつた。西條氏の令嬢は、目白の女子大學でお教へしてあるので、今は裕福な家庭のその愛嬌、嘗ては赤貧洗ふが如しきいふほきの詩人の母上さを對照して、母の力をしみじみ感じたのであつた。時、あたかも「母の日」といふ今日、私は西條氏の記事、その他を想ひ浮べて、自分の母に心からの感謝を捧げたい。西條氏がまだ幼い頃、母の掌に觸つて、その表皮が何かの皮のやうに堅く、荒れてゐるので、その譯をきかれたところ、母なる人が言はれるのに、貧乏をして、お前を育てるために苦勞したから、こんな手になつたのだ、さ。かういふ話なのである。私は自分の母の手が、西條氏の母上のやうに荒れてゐたか、さ

うか、特別な記憶は無い。しかし、苦勞をした世の母の手が、そんな風に荒れてゐるものかは想像に難くない。家にゐた女中の掌が板のやうに厚く、私共が持つこゝの出来ないほき熱いものをも平氣で扱つてゐたのを知つてゐる。私の母の手がそんなに堅くはなかつたにしても、幼い西條氏が、その譯をきかされた時の心配顔が、私には十分呑み込めるし、また、その後、少年、青年の西條氏のすべての行動に、いつも「母の手」が強い感化を與へ、終に今日の氏をあらしめたことを少しも不思議だとは考へない。

掌は三もかくも、私の母は生きんがため、否、子供を生かさんがため、あらゆる辛慘を嘗められたのである。水道町の店を引揚げる頃であつたと思ふ。母はある夕方、私を連れて、何處か、關口か、高田老松町の邊へ出かけられた。何でも立派なお邸である。暗い門の前で私は暫く待つてゐた。するこ母は元氣な顔をして出て來られた。その翌

日、私は母が犬養いふ人の邸へ女中頭として奉公されたのだ、さいふことを知つた。その當時、別に母に對して、相濟まぬきも、何とも思はなかつたのであるが、後年、私達は當時の母に對して、心から相濟まぬきだごお詫びの氣持をいだき、さうしたら母をお慰めすることが出来るものだらうかと苦心した。犬養いふのは故木堂犬養毅氏のことである。母は數日、或は十數日犬養邸に住込まれたが、さうしても子供のことが氣になつて眠れない、仕方なしにお断りして歸つて來たこのお話であつた。尊い母を奉公にまで出させた私達!! いくらお詫びをしても、お詫びのしやうはない。強い「母の手」に限りない感謝を捧げずにはゐられない。

袋町に移る

水道町から神樂坂の上、袋町に引越したのは、やはり私の尋常二年生の時である。今日の日活館から二三軒上手の曲り角の一劃に下宿屋があつた。母は、そこの権利を譲受けて、いよいよ下宿業を始めたのである。數人の支那の留学生がゐた。角の洋館には上等の下宿人がゐるらしい。部屋を覗くと、贅澤なバネ仕掛けの機械體操の道具や、鐵亞鉢が見えてゐた。いつぞや、道路に面した窓から賊がはいつて洋服類を持つて行つたとかで、刑事なるものが、度々やつて來たのを覺えてゐる。廣い臺所で、女中が澤山お膳を並

べてゐた。商賣は相當盛であつたやうである。時には母が鐵道唱歌や軍神廣瀬中佐の歌を歌つてゐられた。苦しい中にもつゝめて朗らかさを保つてゆかうとしてゐられたものと信する。二階の支那の留學生に書や繪の上手なのがて、私にも數枚繪をかいてくれた。赤鬼の繪は今でも保存してゐるが、繪も字も見事なものである。何といふ名の人か、覚えてゐないが、私が今でも支那の人に好意がもてるのは、幼い頃の想出が無意識に働いてゐるのかもしれない。津久土小學校の同級生に特に私の好きな友達が二人ゐた。一人は田淵鑑いふ名の級長で、今一人は趙某いふ支那の少年であつた。趙さんは球技が上手だつた。ある日誘はれるまゝに、その家にお伴をした。麻布の邊のやうに思ふが、大きな邸宅で、一階にはピアノいふ珍しい樂器があつた。支那の油っこいお菓子も嬉しかつた。家の婦人は纏足をしてゐたやうに記憶してゐる。背の高い、人好きのする少年だつたが、今は何處にゐることやら。田淵君は私が轉校した時級長だつたのと、同じ袋町の、しかも、すぐ近くに住んでゐたので特に親しかつた。私はすぐ副級長といふ名を貰つて、田淵君について歩いてゐた。實際不思議なことであるが、私は何處の學校へ轉校しても、暫くするごとく副級長を仰せつかつた。次の學校でも、その次の學校でも、また次の中學校でも、その次の中學校でも、ま

づ副級長に任命された。さういふ因縁なのであらうか。私はいふものが、一番それにふさはしいのであらうか。津久土小學校では、級長に榮進する程長く居なかつた。しかし、私の追憶はこのあたりからやゝ明瞭になつて、少年保の姿が浮び上つて來るのである。

袋町にゐた頃の私に關係のある事柄は餘り芳ばしくない。或る時、簞笥の引出にあつた五圓札を無斷で持出した。當時毘沙門様の前にあつた勧商場で、金色の泥の恵美須大黒を買つて、家に持つて歸つたが、隠し場に困りはて、袋町の方へ、突當つて右へ、今の電車通りへ降りる坂の深い草原の中へ投込んでしまつた。後年、帝大へ入學したその四月、兵營生活で友人となつた小説家の細田民樹氏を、丁度この坂の上の下宿屋に訪ねた時、ふと往年の恵美須大黒を想出して、實に何とも言へないものを感じた。五圓の残りのお金をもつて、更に氷屋に飛込み、氷あづきか何かを食べて、いゝ氣持であるところを徳兄に見つかつて、連れて歸られた。不思議なこゝに、お金のこゝは一言も言はれなかつた。たゞ半日出歩いて、夕食も食べてゐないので、母が心配して、兄に探がさせてゐられたのだといふ。使つたお金は五六拾錢だつたと思ふが、何れにしろ、感心した話ではない。この頃から、私に就いて、ぼつゝ、母の心配が殖えて來たのではあるまいか。

家の前にも下宿屋があつて、同級生がゐたが、その親爺がいつも帳場で、むづかしい顔をしてゐたので、頭から、こここの息子には好感がもてなかつた。暫くして、私達はまた引越すこゝになつた。

第六天町時代

小石川第六天町へ何故移つたかも、私には分らない。今この區役所の下の谷のあたりであつた。江戸川から行くと、交番があつて、その横から谷にはいつて行くのである。門構の中に數軒の借家があつたが、はいつて右側二軒目位だったと思ふ。今でもその門は残つてゐる。當時は日露戰争直後で、小石川の火薬庫と砲兵工廠との間にはトロッコが通つてゐた。白い旗か、赤い旗か、はつきりしないが、ひつきりなしに彈薬を積んで往復してゐた。すぐ近くに高崎といふ知名の銀行家の邸があつて、よくこゝの庭園で遊んだものだつた。この家に徳兄と同年輩の息子さんがゐた。後に一家離散の折、徳兄はこの家に書生として住むやうになつたが、日頃遊びに行つて顔見知りになつてゐた關係だらうと思ふ。この頃、徳兄の病は次第に悪化して、私は毎日藥取りに行つた。泣き面に蜂の言葉があるが、非常に困つてゐたこの時、泥棒がはいつて、何か持つて行つたといつて大騒ぎをしたこゝがある。泥棒は隣の邸の堀へ、家の雨戸を立てかけて、そこへもはいつたのだつた。足跡

のついた臺所の雨戸を、巡査が調べてゐた。僅かの間に、これで二度泥棒に見舞はれたわけである。

私はこゝから津久土小學校へ通つてゐたが、二つの大きな事件が想出される。一つは月謝二拾錢を誤魔化した件、一つは着物の片袖を紛失した件である。月謝を納めなければならぬのを忘れてゐたため、すぐ學校の下の、母の友人石田某の家へ借りに行つた。快く貸して貰つて納めたのはよかつたが、その日、體操の時間に數人の者が教室に居残つて何かしてゐた時、追つかれられたか何かの拍子で片手を硝子戸についたため、ガラスを一枚毀してしまつた。大きな音をたてゝガラスは落ちた。「僕ぢやないよ、僕ぢやないよ」友達は責任を回避した。そのうち、關根先生さかいふ受持の先生が怖い顔をして來られ、頭から怒鳴りつけられた。私はちゞみ上つてしまつた。今迄に経験したこゝの不祥事件なのである。たゞ茫然と立つてゐた。何でもばか／＼幾つか殴られたやうに記憶する。早速辨償せよと言はれるので、家に歸つて二拾錢頂戴した。ガラス代

らう。その片袖を怨めしきうにもさにくつゝけてみたり、懐へ入れてみたりして、家へ歸つてからのことを見配してゐた。夕方みつゝもない風をして、家へ歸つた。さて懐の中の片袖を出さうとしたが、何時の間にか消え失せてゐる。驚いたのは私ばかりではない。母も呆れたさいふ顔であつた。すぐ引返して、道々入念に調べたが遂に見當らなかつた。その後、この着物は中學時代まで着せられたが、着るたびに不注意を繰返されて、まことに痛い思をしたものである。

母や兄達が一生懸命で内職をして居られたのは、この頃である。第六天町に至つては、一家愈々窮乏の極に達したと思はれる。皆が袋張さやらをしてゐられたが、私にはそれを手傳つた記憶さへもない。母の必死の努力も甲斐なく、遂に上京三年未満で、一家はまたもや離散、母は都落ちをされなければならなくなつた。病中の迪兄、給仕の徹兄、そして鼎兄の三人を残して、私を連れ、寒い年の暮に母の郷里に近い東宇和郡儀津村へ下つて行かれるこゝになつた。幼な心の私にも、これは決して樂しいこゝではなかつた。後年、兄達からよく「お前位仕合せなものはない。いつもお母さんの側にゐたのだから」と言はれたが、實際その後三人が力を合せて自活の道を講じた涙ぐましい話を聞いて、自分の苦勞のまだまだ足りないこゝを痛感した。兄

第三人が神樂坂で夜店を出したこと、鼎兄が米屋に丁稚にいつて荷車を曳いた話など、今日でこそ楽しい語り草になつてしまつたが、當時、母の心をざれほぎ痛めたところが想像だにも及ばぬことであらう。

楽しい少年時代

汽船はその頃俵津村へは寄港しなくなつてゐたので、次の港、吉田で下船した。寒い朝であつた。小さい川の端の「うきんや」で朝の腹ごしらへをして、人力車に乗つた。私は母の膝に乗せて貰つた。二里ばかりも行つたのであらう。筋(?)といふ村から小舟に乗つて対岸へ渡つた。寒い海であつた。母と子を抱き合つて小さくなつてゐた。そこから、小さな山を一つ越えて目的地の俵津村へ着いた。村役場の何十疊がある寒々とした二階に通された。そして數日後に、役場の裏の伊藤といふお庄屋の離れに移り住むことになつた。つまり寄るべない母と子は亡父の昔の友、當時俵津村長をしてゐられた大野氏に引き取られたのである。この離れの表は銀行になつてゐた。裏には淺い井戸があつたが、飲み水にはならないので、お庄屋の井戸まで毎日汲みに行かねばならなかつた。小さい私が大きい桶を天秤でかづき、びちや／＼音を立て、不器用な足さりで水を運ぶ恰好は、今想出しても本當に可憐な姿である。そして江戸の子辯で「重くつてやりきれねえ」とか何とか言ひながら

ら、母の手助けをした可愛いゝ當時を、お庄屋のおばさんば、その後よく話してゐられた。

小學校へ出た初めの日、私は黒板に自分の名を書かされた。先生は私を皆に紹介して、仲よくするようにと言はれて、東京から田舎へ移つた私には、學校も、生徒も汚く見えて仕方がなかつた。しかも私は耳だれの女の子と並ばされて、奥くてきょうにもならなかつた。この頃、巖谷小波の世界お伽噺なきが流行して、私は日が暮れて、字が見えなくなるまで読み耽つたものだつた。それに、東京から日本少年や海國少年といふやうな雑誌を徳兄から送つて貰つて愛讀してゐたので、田舎の子供よりは物識りといふところだつた。空氣銃が欲しくて駄々をこね、箱の中へはいつて、買つてやると言ふまで出ないで頑張つて、母を困らせたことがある。丁度そこへ大野の叔父が来て、「あの子はまた何をさるんだや」と口鬚をひねつて母にきかれた。その時は私も少からず恥かしかつた。箱の中から出ることも出来ず、全く手も足も出せなくなつた。やがて徳兄から細長い木箱の小包が届いて、中には黄色い木綿で包まれた、夢にまで見てゐた空氣銃がはいつてゐた。恐らく村の子供も初めて見た空氣銃であらう。これは、想ふに、少年雑誌の誘惑的廣告に釣られて欲しくなつたものに違ひない。ところが、私はこの空氣銃で小鳥を一羽も射落したことがな

い。たゞ電信柱や、白い得子をねらつてばかりゐて、雀さへも落すことは出来なかつた。後年、兵隊になつて、射撃が中隊中でビリから二三番さいふ成績だつたのも、思ひ合はずと不思議ではない。

迪兄危篤の報

その頃、病弱な迪兄も東京を去つて、松山に近い伊豫郡上灘の叔父の家に寄寓し、身體を養つてゐた。叔父が醫者であつたのを、三町歩餘の林檎山を經營してゐて、その監督が入用であつたため、引取られたのであらう。ところが、病が急に悪化し、危篤の報が來たので、母と私は船で急行した。伊豫灘は大時化であつたが小蒸氣は通つてゐた。母はこの時通船から投出されて、すべ濡れとなり、叔母の着物を借りて着られたが、實際は、まかり間違へば大浪にさらはれるところであつた。兄は喀血がつゝき、全く危険であつた。私がるても何の役にも立たぬのを、病も長びきさうで、母の歸られる日もはつきりしなかつたので、私はだけ一先づ先へ俵津へ歸ることになつた。叔父の家はお金持で、綺麗で、何となくいゝところといふ感がした。それに食べ物も贅澤で、私はこの家が好きであつた。俵津に歸つて、母にいひつけられた通り、獨りで御飯を炊いてみた。その頃は石油ランプで、毎日ランプの掃除もしなければならなかつた。御飯は一二度こがしたが直ぐ上手に炊けるや

うになつた。火吹付でブーブー吹いて火をおこしたものであつた。うまくゆかぬ時は家中煙だらけにして、向ふが見えぬやうな時もあつた。呼吸が苦しくて、戸外に一寸飛出して呼吸をしたこともあつた。これは尋常三年生の時であるが、年はゆかなくとも、やらせればやれるものである。

夜、獨りで寝るのが淋しくて、一年下の立花茂夫といふ友達を呼んで来て泊つて貰つてゐた。この頃一人で新聞を發行するのだといつて半紙に色々なお話や出来事を書いて、友達に見せてゐた。それで夜は編輯で忙しかつた。ところが、或る晩、この少年が便所に行つたが、ランプを持つて行かなかつたので、勝手が分らなかつたと見えて、糞壺へ落ち込んだ。引揚けて、裏の井戸で洗つてみたが、さうにもならず、たうとうその晩は泊らずに歸つて行つた。しかし、これが新聞の特種となつて評判を得たのであるが、本當に臭い話であつた。

私が少年らしい少年時代を過したのは、この俵津村での三ヶ年である。即ち三、四、五と三學年を過したこの港の村は私にさつて一番樂しい時代であつたといふべきであらう。しかし、母にさつては必しもさうではなかつた。受難時代はまだまだ容易に終らなかつたのである。

——ヨハンナ・スピリ原作——

八 イ デ イ

(第二十六回)

津田芳雄譯

はじめての山遊びで疲れてゐるから、早く家へ連れて歸つて休ませたかつたのである。

ペーテルが夕方デルフリに著いて見るご、何だか大勢の人だかりがして、てんてに押し合ひへし合ひしながら、のび上つては人の肩越しに、地面の上の何かをしきりにのぞき見ようとしてゐた。ペーテルも、何だか見てやらうと思ひ、肘で人々をかき分けて、進み出た。

「わしは人夫達がこれをかついで上るところを見てたんだよ。さう安く見積つたつて、二百五十四はする代物なんだがなあ。どうしてこんなことになつたんだらうなあ」

ひきい目にあはせてやつたから、今頃はぎんなになつてゐるか見てやりたいと思つてゐた當の敵、が、目の前の草の上に横たはつてゐるのだった。むざんにもばらくにこわれたクララの寝椅子で

ペーテルのそばに立つてゐたバン屋が云つた。
「アルムをぢさんば、大方風の仕業だらうと云つてたわよ」

女たちの一人が、感に堪へぬやうに赤い切れに見入りながら云つた。

「風で仕合せき」パン屋が又云つた。「人間だつたら、ただやすまないからな。 フランクフルトの

旦那の耳にでも入つて見ろ。早速取り調べがあつぱじまらあ。わしはこの二年間いふもの、一度も山へのぼらないから安心だけれど、そばにでもゐ合はせた者は、どんな係り合ひになるかわからぬいぜ」

そのほか、色々みんながてんでに意見を述べ立たが、ペーテルにはこれで澤山だつた。こそそこの人々の間をくぐり抜け、まるで誰かに追ひかけられでもしてゐるやうに、大あわてに逃げて歸つた。パン屋の云つたこゝが怖くて、ひさりで震へて來た。いつ何とき フランクフルトからお巡りさんがやつて來て寝椅子の取り調べをするかわからない。さうなれば、きつと何もかもわかつてしまつて、自分はフランクフルトの牢屋へ入れられるのだ一目の前にまさまさごそんな様子が浮び上り、ペーテルは身の毛もよだつ思ひだつた。家に歸つてもその思ひで一ぱいで、何を話しかけられても返事もせず、お夕飯のちやがいもにも、

手を付けようもしなかつた。大いそぎで寝床にもぐり込むと、蒲團をかぶつて呻つてゐた。

「ペーテルは又すかんばを食べたんだね。よつぱじお腹が痛いんだよ、あの泣き聲ちや」

お母さんが云つた。

「お腹がすくから、そんなものを食べるんだらう。あしたは、わたしのパンもお辦當に入れておやりよ」

おばあさんは不憫さうに云つた。

その晩、クララ＝ハイディはお床にはいつてから、並んでお星様を眺めてゐたが、その時ハイディが云つた。

「わたし、今日いちんち考へてるたのよ。わたしがいくらお祈りしても、もしか神様が、わたしあらの爲めにそれよりもつさいいこゝがあるござ思ひになつた時には、すぐに諾いて下さらないこゝがあるのは、なんて有難いことだらうつて。あんたそんなこゝ思つたこゝあつて！」

「どうしてだしぬけにそんなこゝ云出したの？」

「だつて、わたしフランクフルトにゐた時ね、ごても一生懸命に、神様にすぐ歸らせて下さいませず、お祈りしたのよ。でもなかなか諾いて下さ

らないものだから、神様はわたしのことなんか、忘れておしまひになつたんだと思つたわ。だけさ、ほらもしかあの時わたしがすぐに歸つてゐたら、あんたはここへも遊びに來ないし、そしたら、なほるつてこさもなかつたんだわねえ」

今度はクララの方が考へ込んでしまつた。

「だけさ、そしたらハイディ、神様はいつでもあたしたちのことをちゃんと御存じで、何でもよくしてゐて下さるんだから、あたしたちは何にもお祈りしちやいけないことになるわね」

「まあ、そんなこと考へちゃいけない」とよ、クララ

ハイディは一生懸命に答へた。

「わたしたちは、どんなことでもみんな神様にお祈りしなくちやいけないのよ。そしたら神様は、わたしたちが神様を信じてゐることを知つて下さるでせう？ もしかわたしたちが神様を忘れるでせう？」 さうするごとく、わたしたちはきつと困るのよ。おばあさまが仰しやつたわ。神様が諾いて下さらない時でも、決してお祈りを止めちゃいけないのよ。きつこ神様は、もつございものを

きつておいて下さつて、おしまひにはなにもかもよくして下さるのだからと思つて、悲しがつたりしないで、いつまでもお祈りをつづけて行くのよ」「そんなこと、さうして知つてるの？」

「一等はじめは、おばあさまが教へて下さつたのよ。そしたら、なにもかも、その通りになつたでせう。だから、わたしもほんたうにさうださ、自分でわかつたの。ああ、さうだわ、クララ」

ハイディはお床の上に起き上つた。

「あんたを歩けるやうにして下さつて、二人ともこんなにうれしいんだから、早く神様にお禮を申し上げませうよ」

「さうね、ハイディ、ほんとにさうだわ。あたし、あんまりうれしくつて、少しでお祈りを忘れるところだつたわ」

二人の子供たちは、おもひおもひの言葉で、みんなにも長いこと病身で寝たつきりだつたクララを、歩けるやうにして下さつた御恵みを、神様に心からお禮申し上げた。

あくる朝、おちいさんは子供たちに、珍らしいものをお目に懸けたいからおいで下さい、おばあさまにお手紙を出してはさうかと云つた。けれど

さも子供たちの計畫では、おばあさまをもつこびつくりさせたかつたので、クララがかなりの道をひざりで歩けるやうになるまでは、氣振りにも知らせてはいけないのだつた。それにはされ位かかるかさおぢいさんに訊ねるゝ、一週間もあれば大丈夫だらうとのこなので、子供たちはすぐさまペンをさり、おばあさまに大至急いらして下さいと、お手紙を書いた。でもお目にかけたいものが、あるなきとは、一言も書かなかつた。

それからの五六日は、クララが山で過ごしたきの日よりも樂しかつた。毎朝目がさめるゝ、心の中で誰かがうれしさうにささやいてるやうな氣がした。

「もうなほつたんだわ、なほつたんだわ。もう寝椅子になんかねてゐないでも、ひざりでみんなこおんなじに歩けるんだわ！」

それから、歩くおけいこである。日増しにそれも樂になり、毎日少しづつ遠くまで歩けるやうになつた。山を歩きまはるので、何でもおいしくて、おぢいさんは毎日パンやバタの切り方を厚くして行くのだつたが、それでもまたたく間に消えてしまふのだつた。お乳は大きな壺に一ぱい入れ

て來て、幾杯も幾杯もお代りを注いでやつた。こんな風で一週間は過ぎて、いよいよおばあさまの山へのぼつていらつしやる日がやつて來た。

二十三。さようなら

おばあさまからは、前の日の日付けで、あしたきつと行きますさいふお手紙が、子供たちのところへ届いた。その朝早く、ペーテルが持つて來てくれたのである。おぢいさんも子供たちも、もう外に出て、二匹の山羊と一緒に、ペーテルの来るのを待つてゐた。山羊たちは元氣よく朝風に頭をふり立て、子供たちは「元氣に行つておいで」と、やさしくその頭やせなかを撫でてやつた。おぢいさんはこにこしながら、子供たちの生き生きした顔や、羨けのよい自分の山羊たちを満足げにながめてゐた。

やかてペーテルが登つて來たが、みんなの近くまで來るゝ、急に足もにぶり、おぢいさんの手に手紙を押し込むゝ、怖いもののやうに慌てて逃げ出し、誰かが後から追かけて來でもするやうに、後ばかり振り返りながら、一目散に山へ駆けのぼつてしまつた。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校教授 下村壽一
主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
附屬幼稚園主任 事務員

日本幼稚園協會規則

第一條 本會へ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篇志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ納出スベシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアル

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル講究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

第一、雜誌發行(毎月一回)
二、保育就職及招聘ニ關スル圖書刊行
三、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

會ノ開催

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保育就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 會務ヲ總理ス
主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ
會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ月年

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分之二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

昭和十五年五月二十八日印刷納行
幼兒の教育 第四十卷 第六號

(外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷所 杏林舍

發行所 日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六番

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵稅共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て割増)

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座

東京一七二六番日本幼稚園協會宛に願ひます。送金の節には何月號より第何月號迄

一、と明記せられたし、本誌の代金に對しては別に領收證を差し出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

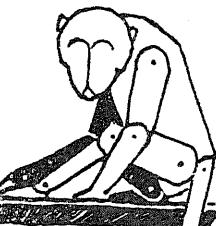
一、本誌の會費切又は前金切の際にはその最終發送の雑誌の封帶に「前金切」の印を押捺しますか
一、其節は早速御送金を願ひます。御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價定

半額	六ヶ年	ケ月	冊	金參	拾五
拾	貳	年	冊	金貳	拾
貳	年	年	冊	圓	圓
拾	五	年	冊	拾	圓

告廣

特等面	一頁	二等面	一頁
金貳	拾	圓	拾
神田區駿河臺	ノ三品田	圓	圓
廣告社に御申込下さい		御断り	以下



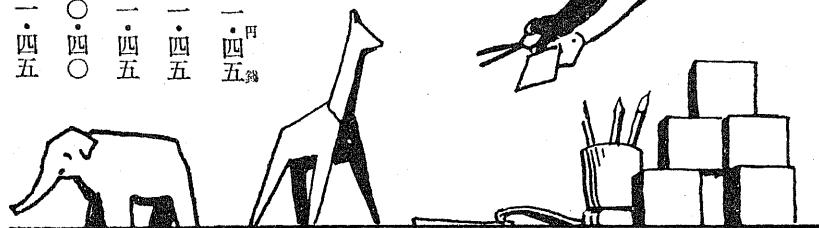
お子達の歓ぶ

面白い切抜の手技

フレーベル氏の手技の延長として、また

お子達自身が作つてたのしめる手技材料。

- ◆切り抜き塗り繪(二種10枚入)○・七二
◆きせかへ(100枚入)一・四五
- ◆切り抜き鳥・昆蟲(二種10枚入)○・七二
◆起し繪(種100枚入)一・四五
- ◆切り抜き自由動物(二種10枚入)留紙五個付二・一〇
◆立體的厚紙細工用紙(種100枚入)一・四五
- ◆切りき抜立動物(二種10枚入)○・七二
◆野入五色厚紙細工用紙(100枚入)○・四五
- ◆切り抜き活動(四種10枚入)一・四五
◆お面用切り抜き(種100枚入)一・四五



食官ルレーレフ 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東社本
番七二八三(24)話電・五町後備・區東・阪大店支